



* 0050852000 *

0050852-000

272-204

当校教育の概要

奈良女子高等師範学校附属国民学校・編

明治図書

昭和17

AHM

月刊
一輯
当校教育の概要
大
女子高等師範学校
附属国民学校編

272
204

國民教育研究
叢書第一輯

當校教育の概要

女子高等師範學校
附屬國民學校編

書叢究研育教民國

輯一第

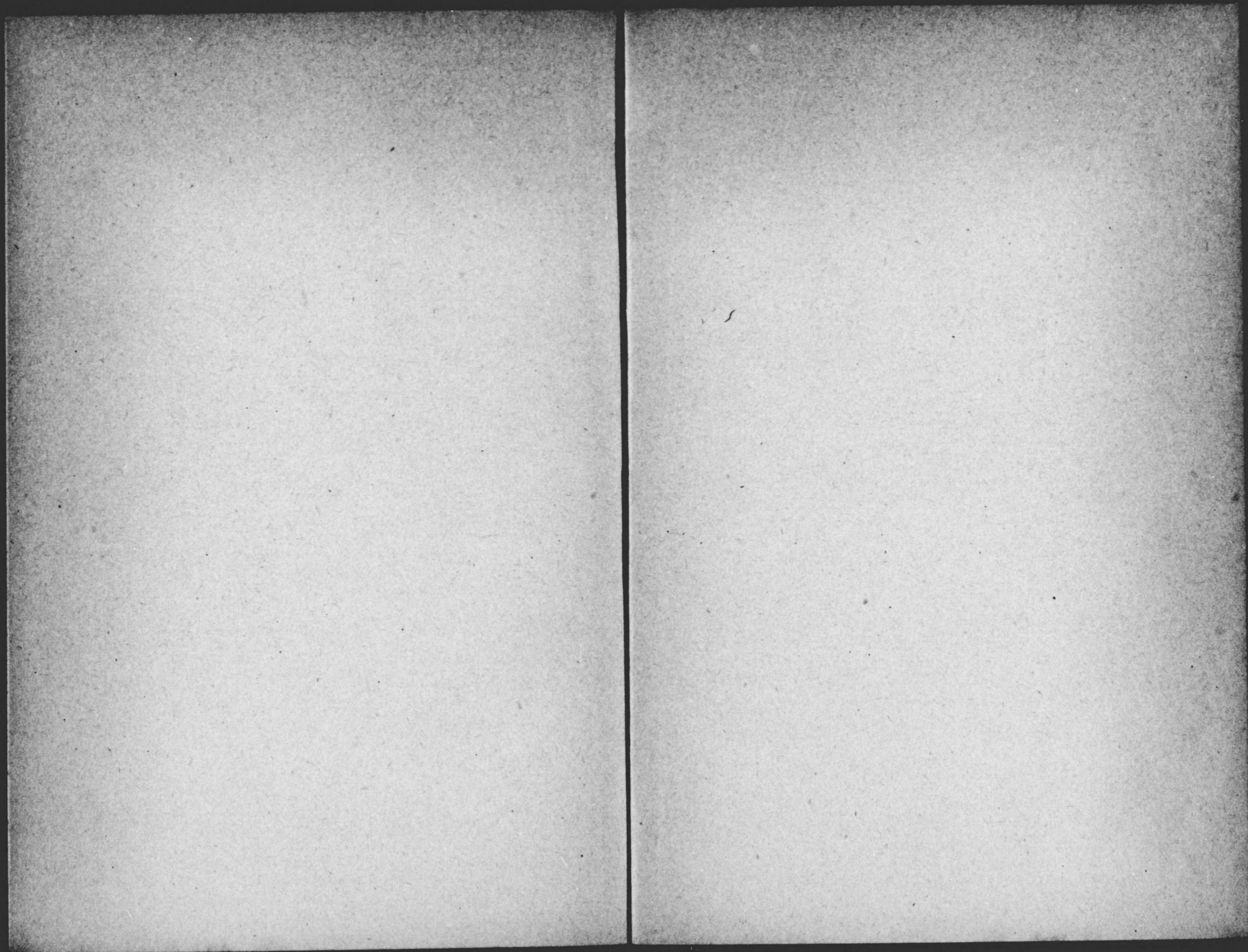
要概の育教校當

校學範師等高子女良奈

纂編校學民國屬附

京 東

社 會 式 株 書 圖 治 明



國民教育研究叢書 第一輯

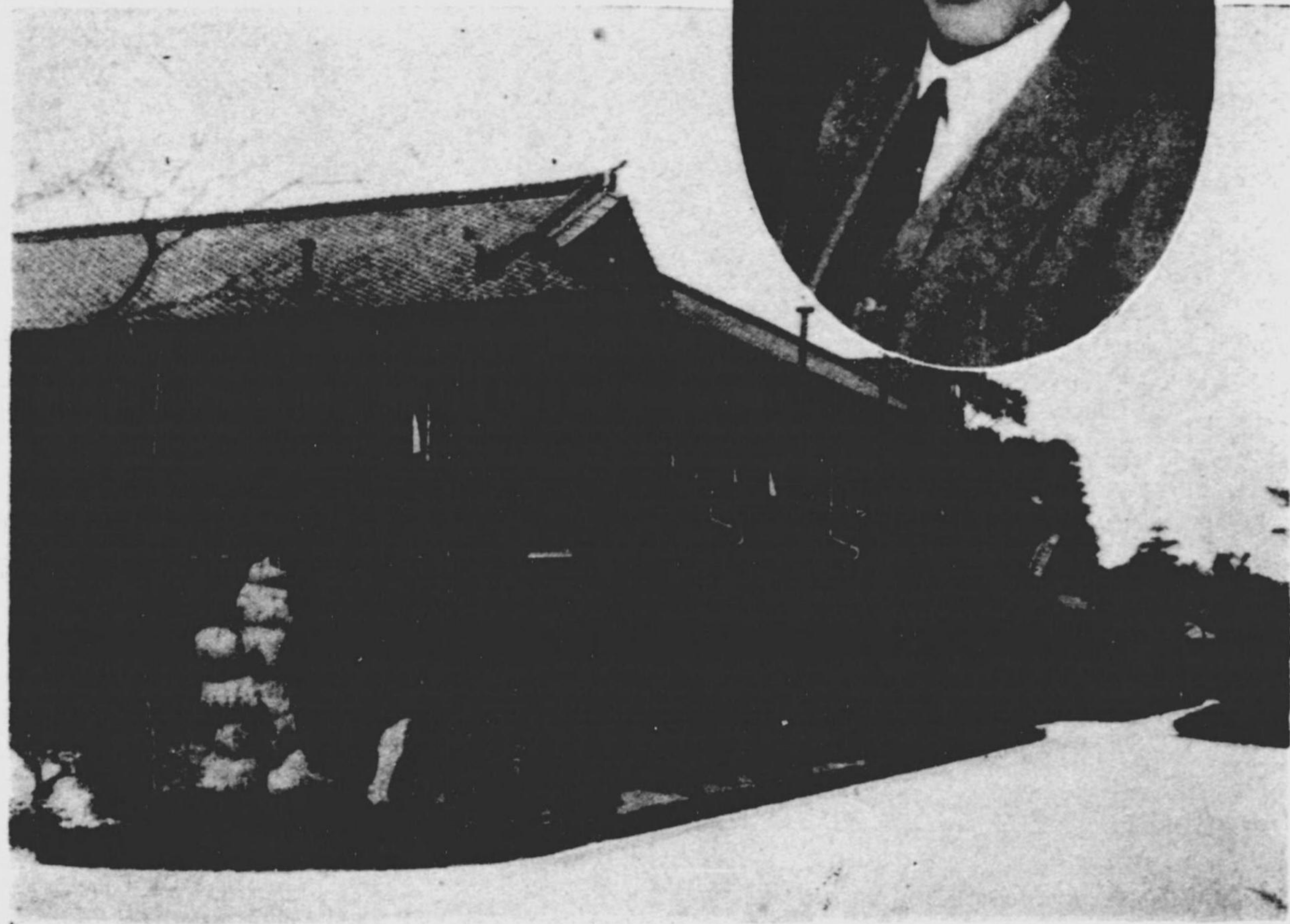


當校
教育の概要

奈良女子高等師範學校附屬國民學校



主事 武田 一郎



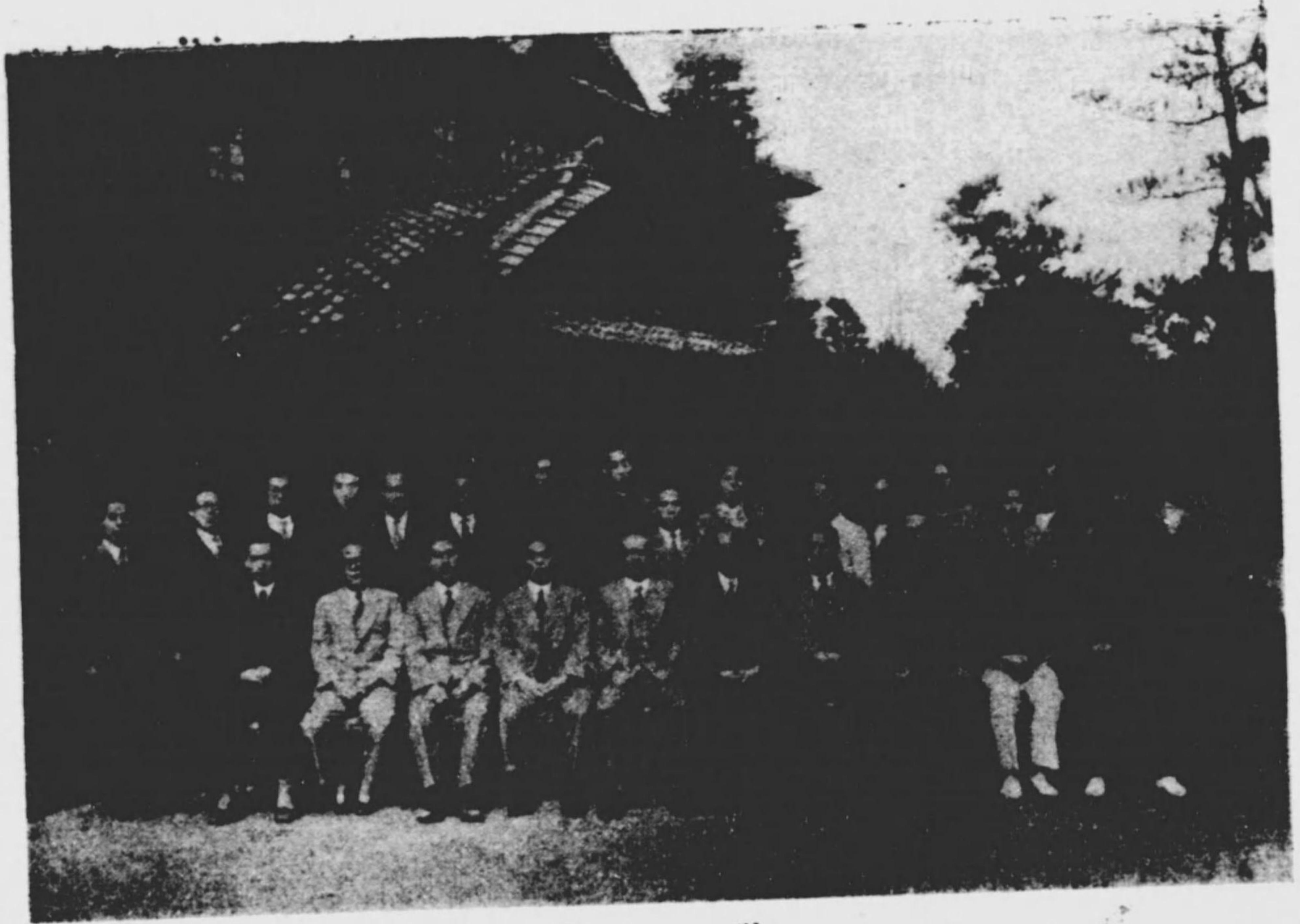
舍 校

序

國民學校經營の適否は、直ちに、國家の盛衰にかゝはると言うても、敢て過言であるまい。我等は、總力を擧げて、國民學校の正しき運営に献身し、奉公の誠を致さねばならぬ。

従來、當校は相當特色ある經營で知られて來た。國民學校制が布かれて、その改むべき點については固より修正すべきであるが、その長所美點については、益々それを伸暢して、國家の役に立つ人物を鍊成したいと念願してゐる。特に、當校兒童の長所である自發・創作の態度は、隨順歸一の訓練と相俟つて、將來一層伸ばしたいと考へてゐる。

當校の教育について直接間接に照會されることが多いので、本冊子を公にすることにした。時局柄、なるべく國策に副ふ意味でこのやうな體裁にした。今後、當校研究の結果を、順次この體裁で發表したいと考へてゐる。



職員

松本千代榮	小笠原ミチ雄	津山貴美子	中澤か壽め	中村温子	中西佐三	白井勇	緒方明吉	土肥准二	島津俊一	高島喜雄	千本木敏雄	小野澤弘	今井正身
増田勳	川村英男	池内房吉	横山誠司	武田一郎	清水其吾	河野伊三郎	鶴居滋一	戸田忠吾					

當校には四年制度の高等女學校が併設してあるが、本要覽には専ら國民學校に關してのみ記載してある。

學校の經營は常に前進的でなければならぬ。我等はこの要覽により、日々に新しき教育實踐に精進するつもりである。

昭和十七年一月

主事 武田 一郎 識す

當校教育の概要 目次

序.....	主事 武田 一郎	一
一 當校の使命.....		一
二 當校教育の信條.....		二
三 當校教育の實踐目標.....		三
四 學校運營の機構と方法.....		八
(一) 學級及び教科の擔任.....		八
(二) 校務.....		二
(三) 後援會.....		四
(四) 校外訓練組織.....		四
五 當校教育活動の運營形態.....		六
(一) 教授.....		六
(二) 訓育.....		三
(三) 體育.....		〇
六 各學年の經營方針.....		五

當校教育の概要 (目次)

(一) 初等科..... 四

(二) 高等科..... 七

七 行事計畫と實際

(一) 一日の行事..... 六

(二) 一週の行事..... 五

(三) 一月の行事..... 五

(四) 一年の行事..... 五

八 教育の研究及び地方教育の指導

(一) 教育の研究..... 六

(二) 地方教育の指導..... 六

九 當校沿革の概要

..... 六

一〇 參觀案内

..... 六

口 實 眞

口 繪

(表 面) 主 事 武田一郎・校舎

(裏 面) 職 員

挿 繪

運動場より校舎を望む(六頁)・國民科地理の作業(八頁)・分團別の下校(一五頁)・普通教室の一部(一八頁)・圖書室の一部(二〇頁)・工作室の一部(二二頁)・理科室の一部(二二頁)・體鍊館の一部(二三頁)・割烹實習室の一部(二五頁)・觀察園(二六頁)・寫真も入れる揭示教育(二七頁) 階段側壁利用の時局地圖揭示(二八頁)・校外寫生(二九頁)・學藝會(三〇頁)・皇陵參拜(三三頁)・農園における増産勸勞(三四頁)・全校一齊清掃作業(三七頁)・寒風を衝く大和平原の強歩訓練(四二頁)・西運動場にての體鍊(四二頁)・初等科一年教室の一部(四六頁)・初等科六年教室の一部(四七頁)・教室正面の御額(五〇頁)・分列行進(五三頁)・航空日の飛翔大會(五五頁)・春日神社にて戰勝祈願(五七頁)・國民教育講習會(六一頁)・國民教育研究協議會(六一頁)

校地校舎の略圖(六六頁)

— 目 次 終 —

一 當校の使命

一 兒童の教育

當校は官立の國民學校であるが、收容する兒童は義務教育期間の兒童であり、國民學校令及び同施行規則に則つて教育するのであるから、初等普通教育を行ふ學校たるに於いては、一般の國民學校と何ら異なる所はない。

女子高等師範學校の最終學年生徒を、各學級に配當して教育の實際を體驗させ、女子中等學校教育者としての基礎的修練をさせる。地方師範の附屬國民學校と比較して、授業が主に専攻學科であること、教生が卒業後中等學校に奉職することなどが異つてゐる。

三 教育の研究

官立國民學校の最大の使命は、國民學校令・同施行規則に則る學校教育の範を示

し、地方國民學校を指導することにある。よつて本校教官は主事の統率の下に、文部當局と緊密な連絡を保ち、國民學校の教育を研究して、國家の意圖する初等普通教育の理想を實現することにつとめる。

二 當校教育の信條

當校教官は、尊嚴無比なる國體に淵源する皇國教學の本義に徹し、國民學校令第一條の旨趣に基き、左記教育觀をもつて職域奉公の誠を致さんとする。

學校觀

學校は最も意圖的に皇國の道を修練せしめんとする國民鍊成の道場である。

- 1 學校は教育によつて國家の理想を最も忠實に具現する。
- 2 教師兒童は學校生活において臣道の實踐につとめる。

學級觀

學級は學校を構成する有機的單位で、學校教育の方針を具現し、師弟の俱學俱進

によつて皇國の道を行ずる道場である。

- 1 學級は敬愛隨順の家庭的雰圍氣を有し、自修・創造的態度を涵養する施設を整備する。
- 2 學校教育の方針は、男女學年の特性に應じて、直ちに學級教育に具現するにつとめる。

教師觀

教師は皇國の道を體得して、その實現の先驅となり、皇民鍊成の使命を遂行する。

- 1 教師は東亞及び世界における皇國の使命を自覺し、世界の情勢と國家活動の方向とを知悉し、國家の國民教育に要求する所を洞察してこれが實現につとめる。
- 2 教師は師道の確立につとめ、垂範躬行もつて教育報國の實を擧げるにつとめる。

兒童觀

児童は生れながらにして歴史的試煉を経たる民族の生命を素質とする。この素質は、教師の垂範と指導による日本文化の體得鍊磨によつて育成發現せられる。

1 児童をして學校生活のあらゆる機會に亘り、常に全力をあげて自修的に活動させ、もつて國民文化の創造者たる資質の向上を圖る。

2 皇國の地位と使命とを自覺させ、國策遂行の實踐力と創造力とを鍊成する。

家庭観

家庭は國家の構成と活動の具體的單位であつて、「おほみたから」たる児童成育の地盤であり、學校教育の最も有力な背景である。學校教育は家庭並に社會との一貫せる教育精神の下においてのみ、完全な成果を期することが出来る。

1 家庭との連絡を緊密にし、常に學校教育方針の徹底を圖り、學校と一體となつて、皇民鍊成の實をあげさせる。

2 教師は児童・家庭の教育を通じて社會教育をなし、もつて健全な社會を建設するの熱意を有しなければならぬ。

教材観

教材は皇民鍊成の目的を児童の能力に照して選擇せられた文化財で、教科書はその標準と指導精神とを示すものである。

1 教科書の研究により、教師は國家の初等教育に要求する所を了得し、児童生活の實際に即し、有效適切な方法をもつて指導する。

2 教材を取扱ふに當つては、知的に偏することなく、児童心身の一體的活動をさせ、全人格的に陶冶する。

三 當校教育の實踐目標

當校の使命を達成せんがため、本校教官は前記の信條を確把し、國民學校法令の示す所に基き、次の事項を目標として教育の實踐に努力する。

一 國民的世界觀の確立

1 肇國の聖地大和に學ぶ喜びを感じさせ、肇國精神の昂揚と具現とにつとめる。

2 世界新秩序建設期における我が國の使命と、我が國民本來の世界觀とを自覺徹底させる。

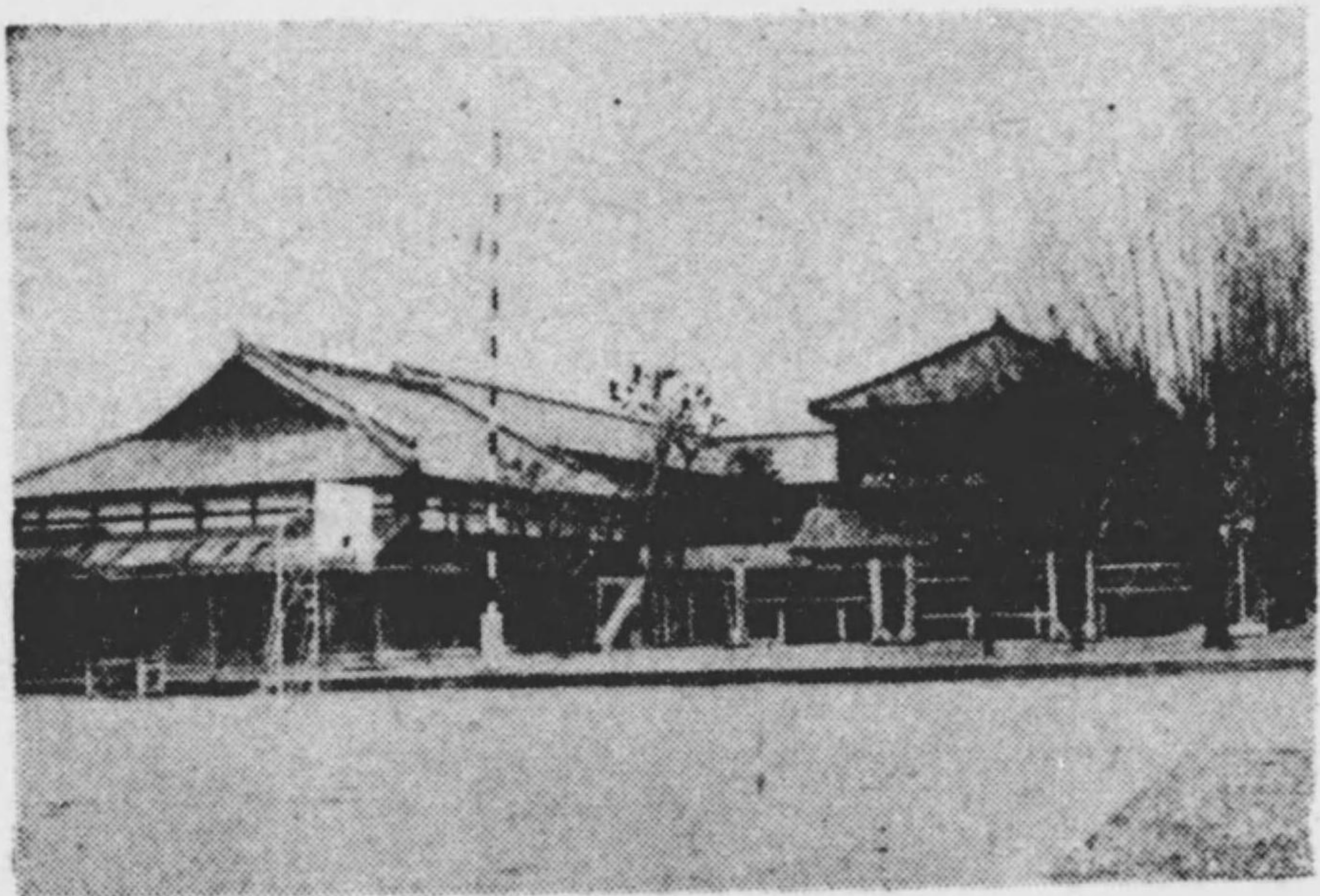
3 氣宇を大にし、識見を長じ、信念を強固にし、東亞諸民族、進んでは世界人類の指導者たるべき大國民的資質の啓培につとめる。

二 具體にたつ教育

1 教育を郷土における兒童の日常生活より出發させ、直觀・勞作により教育の具體化を圖り、國民的生活力の根基に培ふ。

2 兒童心身の發達に留意し、個性・能力を考慮して國民生活の實際に即せしめ、將來の職業と國防に應ずる教育につとめる。

3 東亞並に世界情勢の赴く所と、國家的要請とを速かに理會せしめ、これが實



運動場より校舎を望む

踐を指導し、訓練につとめる。

三 教育作用の統一

1 各教科並に科目は、その特色を發揮して兒童の個性能力の伸長・學習訓練の確立を圖ると共に、教材相互の關聯を緊密にして皇民鍊成の一途に歸せしめる。

2 行による學習を行はせ、躰と衛生とを重視して、學習即ち心身一體の鍊磨となるやうにする。

3 學校行事を組織化して教科取扱に生かし、特に儀式は最も大切な國民精神を涵養する機會であるから、教科と一體として訓話・禮法體得に遺憾なきを期する。

4 家庭及び校外團體・社會との一貫的聯絡を圖り、健全な校外生活の指導につとめ、學校教育の擴充徹底を期する。

四 自修創造的態度の修練

1 兒童の興味を導き、生活のすべての機會と環境の事物現象に即應して、不斷

國民科地理の作業（地球儀・立體模型の製作）



に自修する態度を修練する。
2 自發的な發表・創作を獎勵し、以て自ら進んで日本文化の進歩と國運の隆昌を圖る創造的態度を修練する。

四 學校運営の機構と方法

(一) 學級及び教科の擔任

一 學級擔任

學級擔任は主事之を命じ、初等科六ヶ年の持上りを本體として次の事を掌る。

- 1 擔任兒童の教育
- 2 教室の施設經營、並に圖書備品の保管
- 3 擔任兒童に關する事務
- 4 保護者及び社會との連絡
- 5 その他學級經營上必要なる事項

學級擔任教官氏名（昭和十六年度）

初等科		高等科	
第一學年男女	白井 勇	第一・二學年男	高島 喜雄
第二學年男女	清水 甚吾		
第三學年男女	鶴居 滋一		
第四學年男	緒方 明吉		
第四學年女	池内 房吉		
第五學年男	増田 勳		
第五學年女	河野 伊三郎		
第六學年男	千本 木敏雄		
第六學年女	小笠原 ミチ雄		

四 學校運営の機構と方法

二 教科擔任

學級擔任と協力して教科の教育並に事務を行ふ。低學年では教科擔任が學級擔任を輔け、高學年では學級擔任が教科擔任を輔け、協力一體となつて教育の萬全を期する。現在學級に配置せられてゐる専科教官の擔任教科は次のやうである。

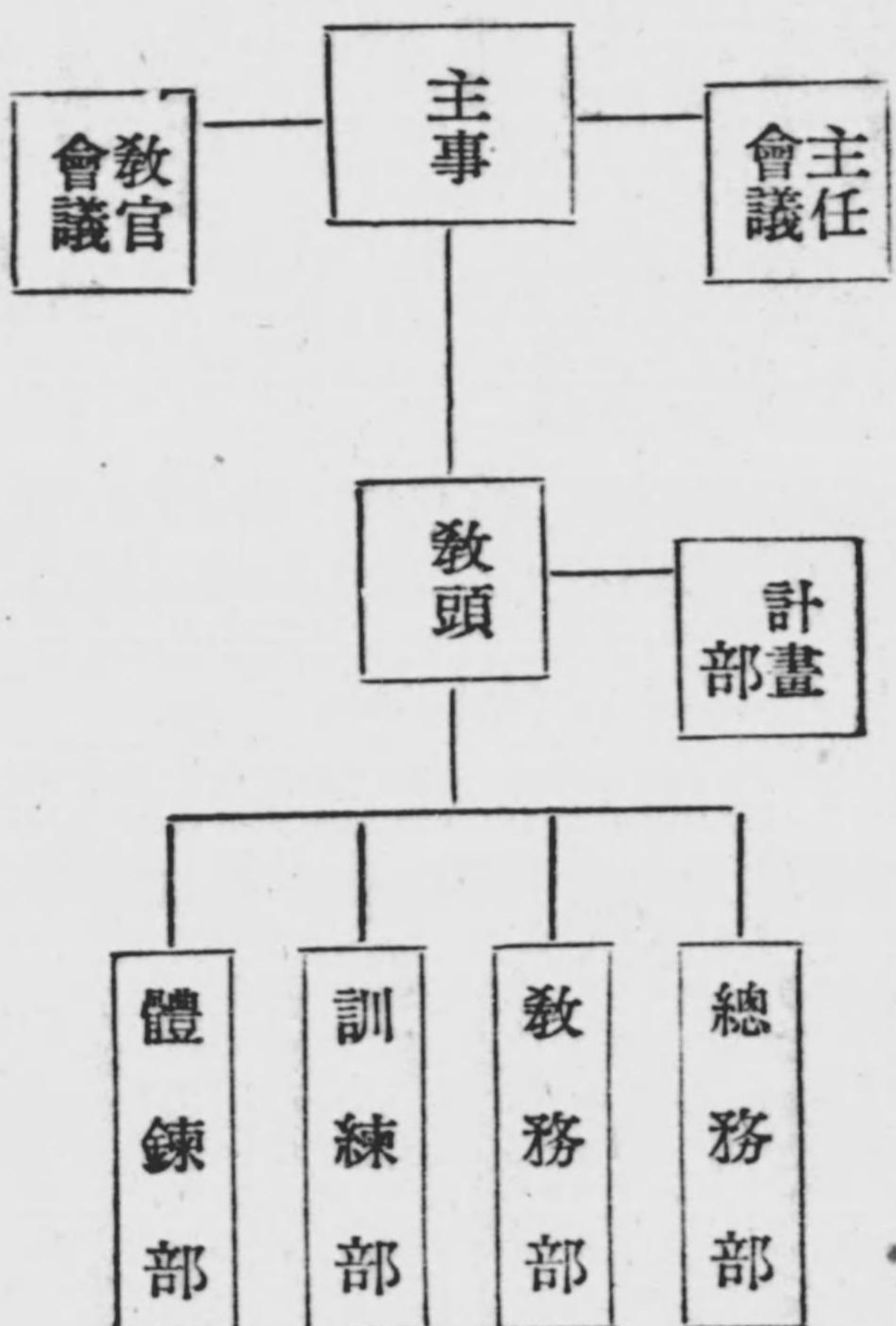
- 理科 數科 理科
- 體 鍊 科 體操、武道（劍道、柔道、薙刀）
- 藝 能 科 圖畫、工作、音樂、裁縫、家事
- 實 業 科 工業

教科擔任は次の事を掌る。

- 1 擔任教科の授業
- 2 關係學級の訓育並に體育
- 3 所屬特別教室の施設經營並に圖書備品の整理
- 4 擔任教科に關する事務
- 5 その他擔任教科の經營上必要なる事項

(二) 校 務

一 校務運營機構



二 校務分掌

學校運營は主事統率の下に總務部にて、全體の企畫と統制となし、教務部・訓練部・體鍊部にて運營をする。

教頭は總務部主任を兼ね、計畫部を諮問機關とする。

四 學校運營の機構と方法

各教官はそれ／＼の部に屬して事務を分掌する。

イ 總務部

- 1 學校經營の全體的企畫
- 2 各部の聯絡統制
- 3 學校曆の作製並に運營
- 4 受持授業配當表の作製
- 5 學校一覽等の作製
- 6 教官會議・主任會議の運營
- 7 研究會の運營
- 8 本校との聯絡
- 9 學校日誌の記入
- 10 校舎内外の整備(觀察園・農園を含む)
- 11 備品消耗品に關する事務
- 12 教生指導に關する事務
- 13 保護者との聯絡並にその指導
- 14 後援會との聯絡とこれに關する事務
- 15 儀式行事に關する事務
- 16 參觀人控室の施設運營
- 17 その他學校經營全般に關する事務

ロ 教務部

- 1 課程表の作製とその運營
- 2 圖書の購入保管
- 3 校外教授の計畫と實施
- 4 始業終業に關する事務
- 5 揭示教育の實施
- 6 ラジオ教育の實施
- 7 映畫教育の實施
- 8 授業細目の整備
- 9 教科關聯表の作成
- 10 學藝發表の立案運營

- 11 週番の時局講話の計畫
- 12 兒童の入退學に關する事務

ハ 訓練部

- 1 訓練計畫の樹立並にその運營
- 2 禮法・教練の日常化徹底
- 3 校外訓練組織の指導
- 4 校舎内外の清潔美化作業の割當と指導
- 5 集團勤勞並に奉仕作業の計畫實施
- 6 防火防空の非常訓練
- 7 服裝に關する事務
- 8 訓練勤務の割當
- 9 少年團に關する事務
- 10 その他訓練全般に關する事務

13 その他教務全般に關する事務

ニ 體鍊部

- 1 體育運動行事計畫の樹立と運營
- 2 衛生設備
- 3 身體検査に關する事務
- 4 校醫との聯絡
- 5 運動施設の經營管理
- 6 教官運動の運營
- 7 その他體鍊全般に關する事務

ホ 計畫部

- 1 教育雜誌寄稿に關する事務
- 2 研究物の發刊に關する計畫と實行
- 3 學校經營進展の計畫

備考 會計並に文書等に關する事務は書記が行ふ。

四 學校運營の機構と方法

(三) 後援會

家庭と學校との聯絡を圖り、學校教育の後援をなすために後援會が組織されてゐる。

會則 抜萃

- 一 本會ハ奈良女子高等師範學校附屬國民學校後援會ト稱シ同校兒童保護者ニシテ本會ノ趣旨ニ賛成シ入會シタル者ヲ以テ組織ス
- 一 本會ハ家庭ト學校トノ連絡ヲ圖リ教育ノ進歩發達ヲ期スル爲メ左ノ事項ヲ遂行スルヲ以テ目的トス
 - 一 學習上必要ナル物ノ購入
 - 二 講演會・研究會ノ開催
 - 三 學校計畫ノ事業ニ對スル後援
- 一 本會々員ハ會費トシテ一ヶ月壹口金拾錢ト定メ其ノ口數ハ五口以上任意ニ離出スルモノトス
前項ノ會費ハ每半ヶ年分ヲ四月、拾月ニ前納スルモノトス
- 一 前條ノ會費ハ其ノ目的ヲ遂行スル費用並ニ本會々務處理ノ經費ニ充當スルモノトス

(四) 校外訓練組織

兒童相互の切磋共勵、協同互助により、校外生活の國策的訓練を目的として、校外分團を組織

してゐる。

一 主なる訓練目標

- 1 交通訓練
- 2 避難訓練
- 3 隣保扶掖の精神涵養と實踐
- 4 長幼・交友間の敬愛・和親・扶助の精神涵養と實踐

二 校外分團の組織

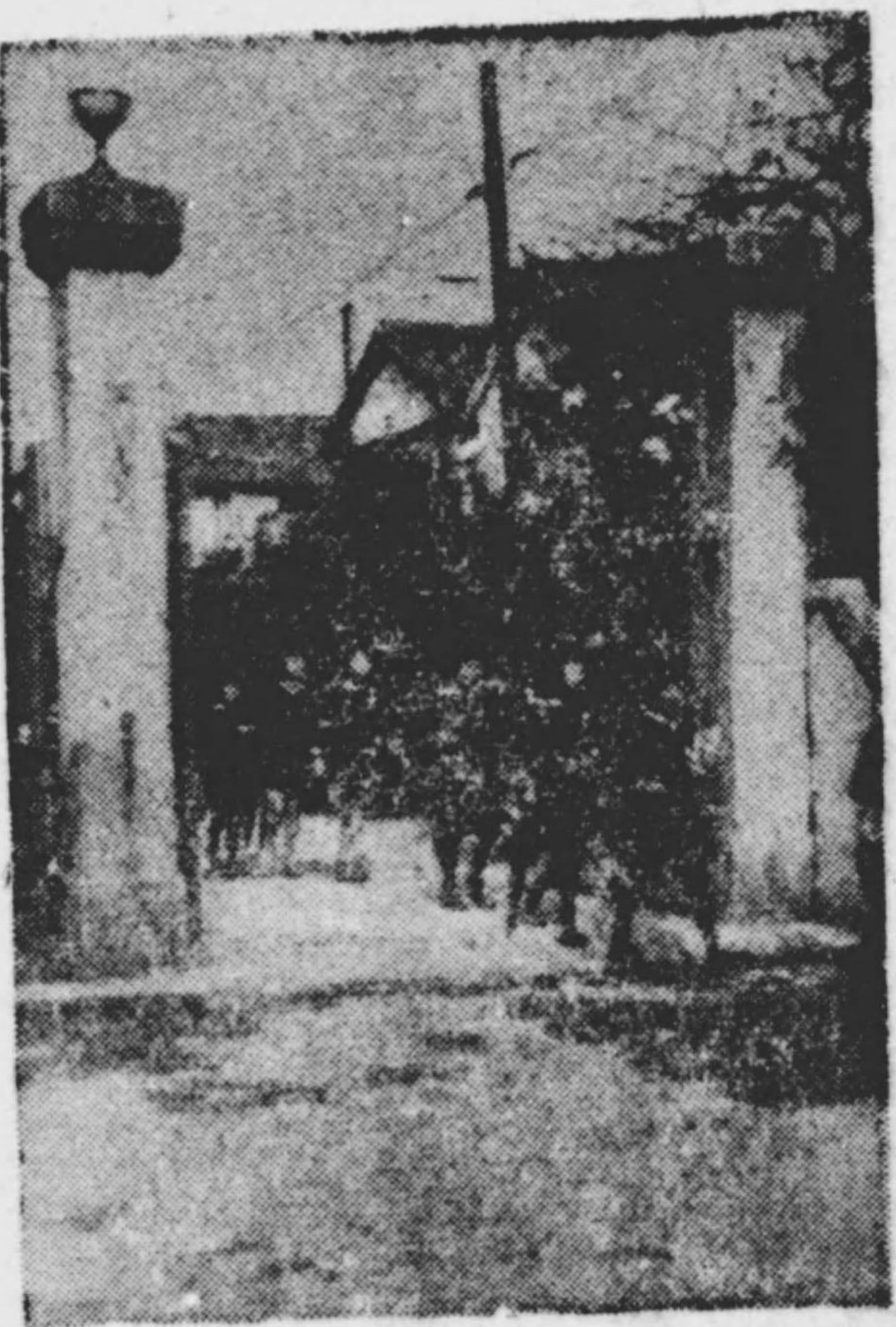
- 1 通學區域によつて全兒童を東・西・南・北・中の五分團とし、各分團にはその最上學年兒童二人を選んで分團長・副團長とする。
- 2 各分團に班を置き、隣保兒童を班員とし、班中の最上學年兒童二人を選んで班長・副班長とする。
- 3 各分團には教官二人乃至三人が配屬せられその指導に當る。

三 主なる修練行事

- 1 通學分團別の閲童並に分列式

四 學校運営の機構と方法

分團別の下校



- 2 避難集合と行進
- 3 登校・下校その他一般の歩行訓練
- 4 分團・班常會

備考 本組織は少年團としてそのまま校外訓練の組織たらしめる。少年團としての特殊行事に關しては別に之を定める。

五 當校教育活動の運営形態

(一) 教授

一 教授方針

教授の根本精神を、日本文化の發展と國運の隆昌を圖るにおき、兒童の積極的學習態度の鍊成につとめる。

- 1 教科書編纂の精神にもとづき、これの内容を兒童心理に即して指導し、知識を具體的ならしめ、應用力・創造力を體得させる。
- 2 教師の指導と環境の整備により、兒童自ら問題を構成し、解決創作する自發的學習態度の涵養につとめる。

二 教室の施設

1 普通教室

普通教室は皇民鍊成の道場として次の施設運営をする。

イ 宮城の御寫眞、青少年學徒に賜はりたる勅語の御額
日々に敬禮を、記念日に謹誦をさせて國體觀念を養ふ。

ロ 學級圖書並に雜誌

兒童讀物として適切なる圖書雜誌類を、後援會費・學級學用品費にて購入して各教室に備へ付け兒童に閱覽させる。

定期刊行物としては、年鑑・國勢圖會・週報・寫眞週報・兒童用科學雜誌等を備へる。

ハ 掛 圖

世界全圖、日本總圖、東亞地圖、年代圖等を常掲する。

ニ ビヤノ又はオルガン

兒童に隨時使用させ、情操の醇化と聽覺の訓練に資する。

ホ 地 球 儀

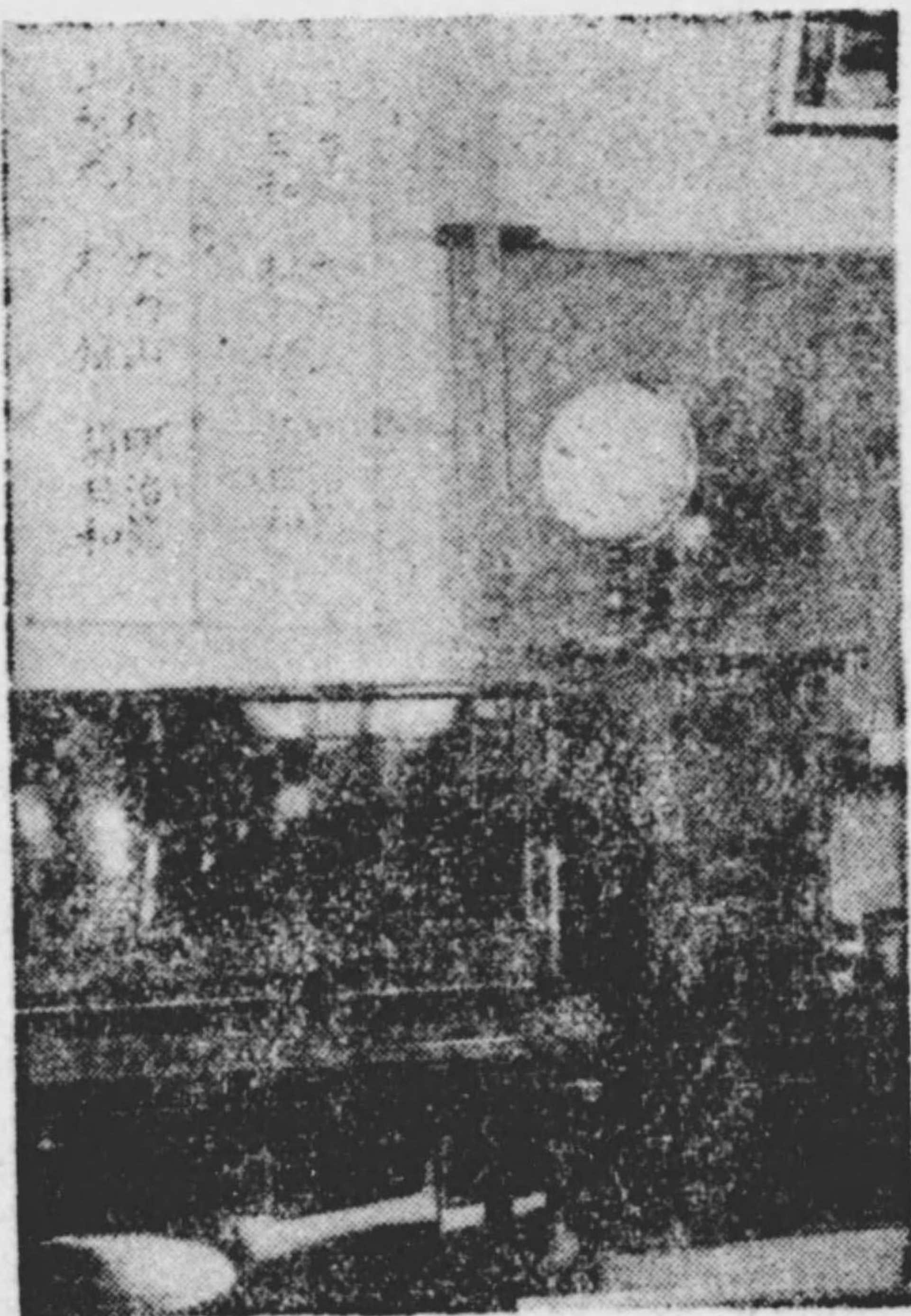
ヘ 計 量 具

五 當校教育活動の運営形態

當校教育の概要

- 尺度 卷尺、竹尺
- 秤 上皿秤、臺秤
- 樹 ガラス製樹、金屬製樹
- ト 時計及び寒暖計
- チ 小黒板
- 各教室に數十枚常備し、學習の發表直觀、その他隨意に使用させる。
- リ 工作用具
- 鋸、金鋸、木槌、釘拔、錐、木ねじ
- まはし等の工作用具を取揃へ、教室の設備その他簡単な修理に使用する。
- ヌ 工作臺
- 初等科一・二・三年の教室におき、簡単な工作をさせる。
- ル 陳列棚及び陳列臺
- 成績品又は觀察物を陳列して觀察させる。
- ヲ 水槽、昆虫飼育箱、鳥籠

普通教室の一部



季節による魚類、昆蟲、鳥類を飼育して觀察させる。

ワ 行事板

學年に適應するやうに行事計畫豫定を記入し、行事との關聯を緊密にし、學習を計畫的にさせる。

カ 揭示板

成績品、新聞切抜を揭示する。

ヨ ラ ジ オ

タ その他

2 圖畫室（教室及び準備室）

單に藝術的繪畫をすることにとゞめず、皇國民として必要な造形生活全般に亘る基礎的素質向上に藝能科圖畫の目標を置き、圖畫室の設備運営をする。

イ 圖畫教育に必要な圖書並に鑑賞用繪畫、寫真

兒童に造形上の體驗を豊富にさせ、教師の研究に廣汎確實な基礎づけを圖る。之の取扱は、教科書について學習した所を、出来るだけ多數の實際について實證させることにとつとめる。

當校教育の概要

繪畫、建築、土木、諸機械、自然等全般に亘る参考品を陳列し、鑑賞繪畫については兒童の作品も多く活用し保存する。

ロ 標準色彩圖

ハ 製作用器具

圓卓、畫架、製圖板

ニ 鑑賞用器具

額縁、成績揭示板、實物幻燈及び映寫幕、揭示鑑賞
においては鑑賞の重點を出来るだけ明確に示す。

ホ 寫生設備

靜物臺（高・中・低）靜物模型、鏡

ヘ 水洗設備

3 工作室（木工室、機械室、金工室）

當校工作室は藝能科工作及び實業科工業教授の特別教室として、特に各種機械及び工作用具の設備をする。

イ 工作臺及び工作用腰掛



部一の室畫圖

工業用工作臺と共に木材の切斷、その他に使用し得る角型腰掛を設備する。

ロ 工業及び工作用機械

機械設備としては木工旋盤・鉋削機・帶鋸機・圓鋸機・穿孔機・グラインダー・絲鋸機・
金工旋盤等を設備する。

ハ 水洗設備及び砥石

ニ 工作作品及び參考品

ホ 陳列棚

ヘ 各種材料棚

ト 木工用具、金工用具、工具箱

チ 模型航空機製作用具

リ セメント工用具

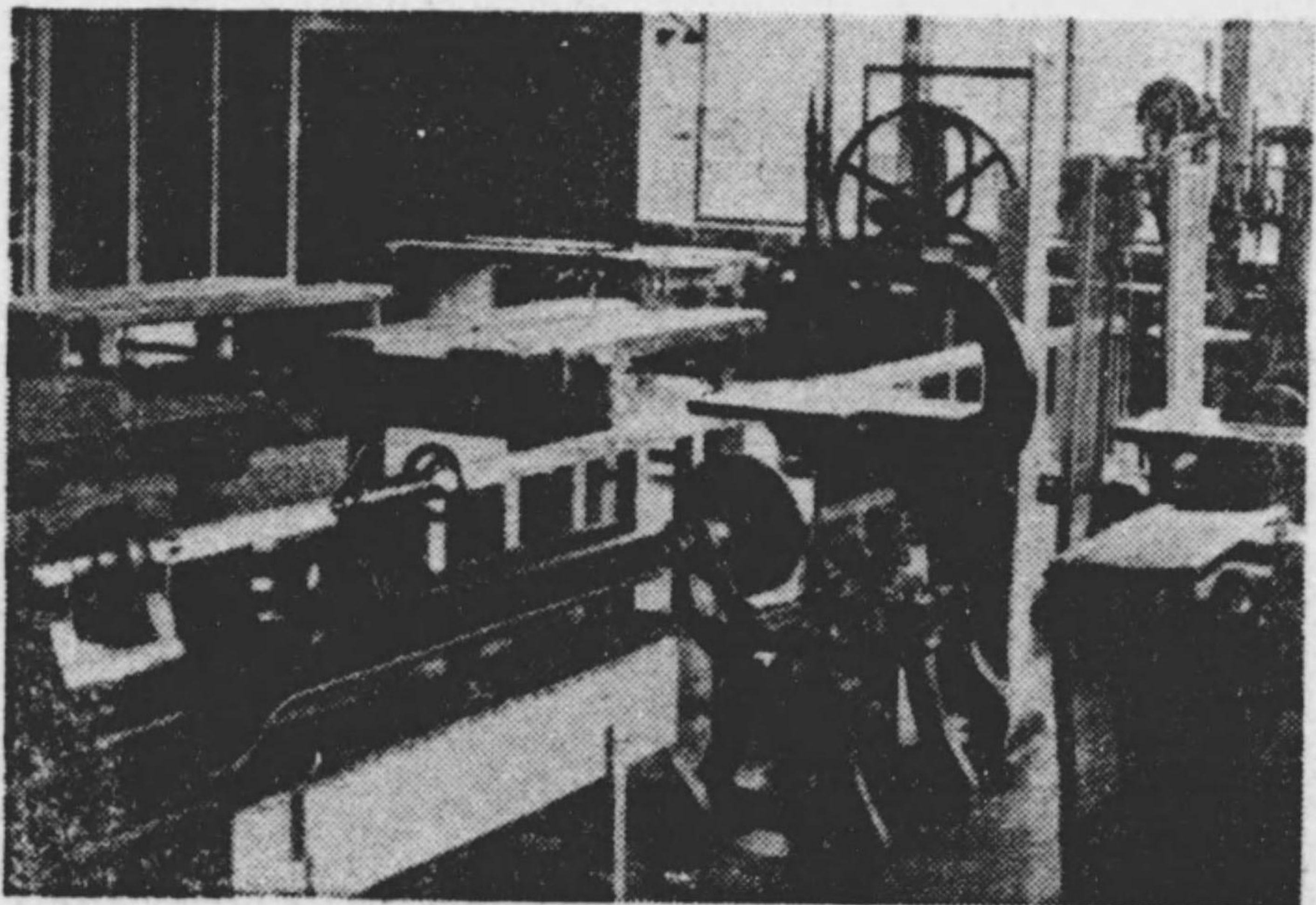
ヌ 粘土甕

ル 電気窯

ヲ 配電盤

ワ 各種工作用材料及び藥品

五 當校教育活動の運営形圖



部一の室作工

當校教育の概要

カ 工作用掛圖

ヨ 工業及び工作教育に必要な圖書

4 音樂室

藝能科音樂を通して國民の基礎的鍊成をするため次の施設をする。

イ ビヤノ

ロ 音樂教育に必要な圖書

ハ 蓄音機及びレコード

ニ 音樂教育用掛圖

ホ メトロノム

ヘ 五線黑板

5 理科室(教室及び準備室)

科學する心を體得させる中心道場として、兒童の自發的、積極的學習に便なるやうに、諸種の施設をする。

イ 各種標本、模型

ロ 實驗用機械器具、藥品

ハ 飼育、栽培設備

ニ 採集用具

ホ 理科教育に必要な圖書、掛圖、雜誌

ヘ 氣象觀測設備(氣壓計、風速計、百葉箱)

ト 工作用具

チ 水道、ガス、電氣設備

リ 暗室設備

6 體鍊館

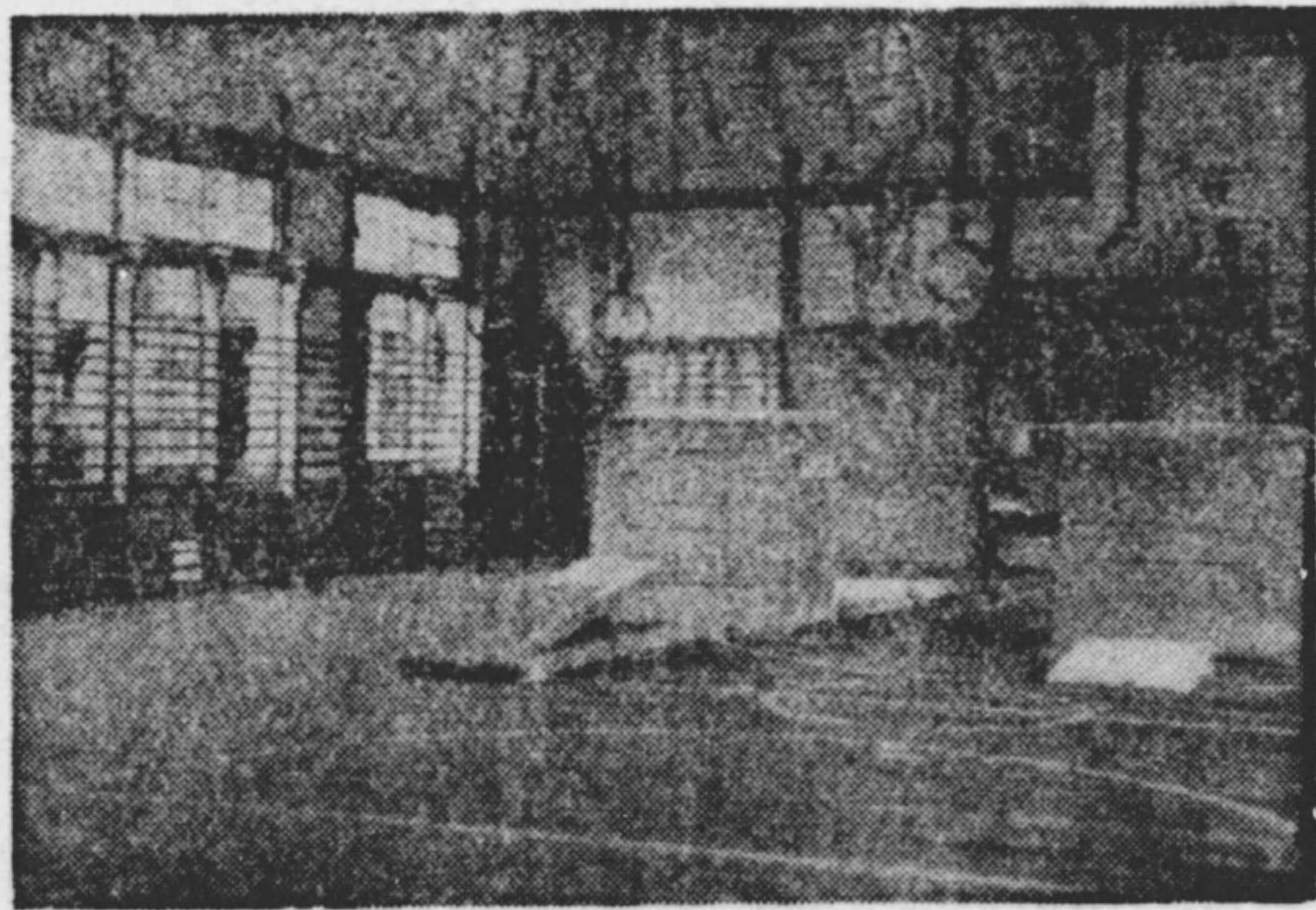
身體運動を通しての皇國民鍊成の道場とするため、次の施設をする。

イ ビヤノ

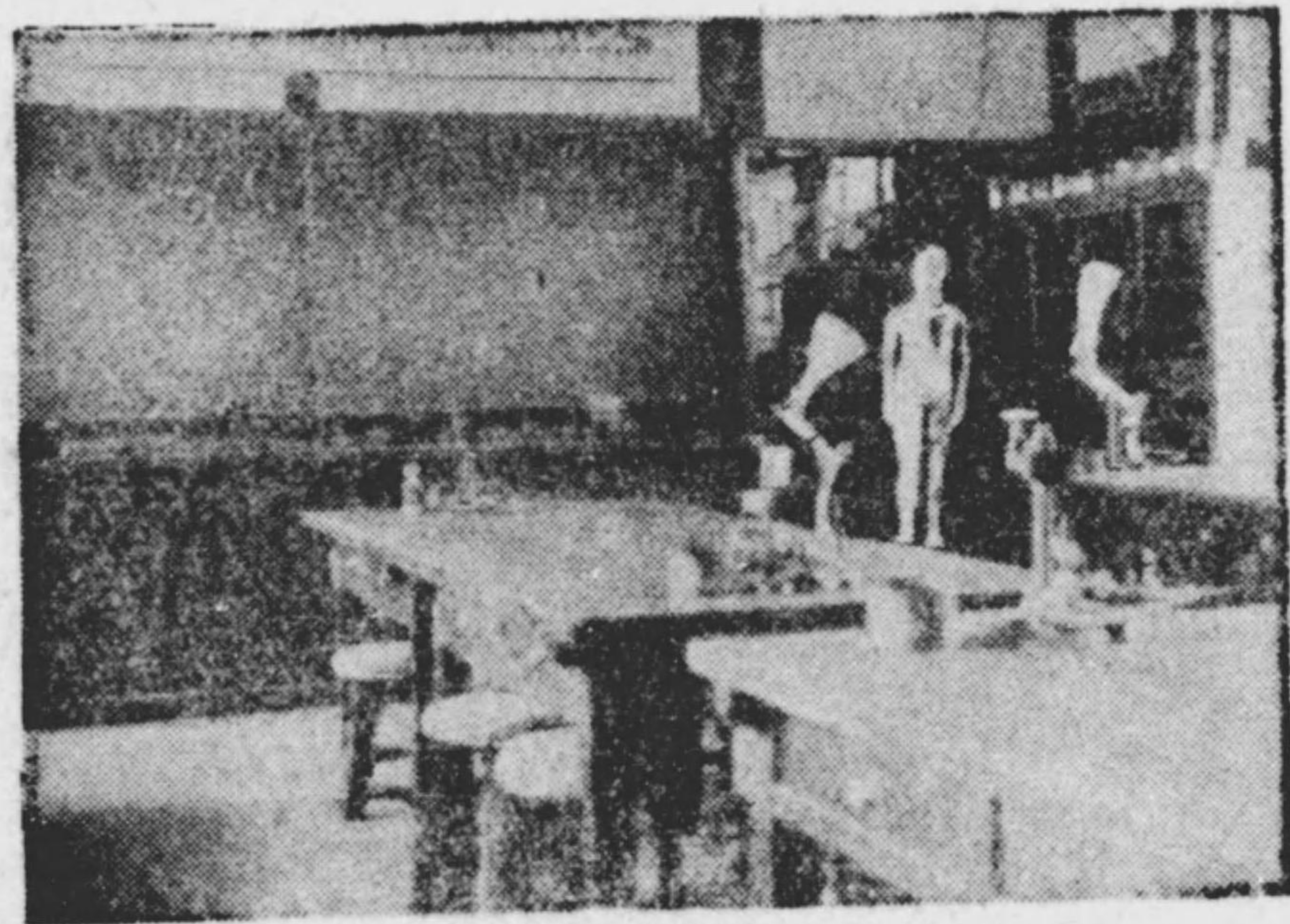
ロ 蓄音機

ハ ボール(籠球用、排球用その他)

五 當校教育活動の運営形態



體鍊館の一 部



理科室の一 部

- ニ 木刀、薙刀
- ホ 籠球用板
- ヘ 肋 木
- ト 黒 板
- チ 擴聲設備
- リ 體鍊教育に必要な圖書雜誌
- ヌ 體鍊自修に必要な大鏡
- ル その他體操用具

7 裁縫室

裁縫に關する工夫創作力を啓培し、日常生活に必要な適切な衣類を容易迅速に調製する能力を得させ、高尚な趣味を養つて、品位ある服装常識を確立させ、裁縫を通して皇國女子としての修練を行ふことに目標をおいて施設運営をする。

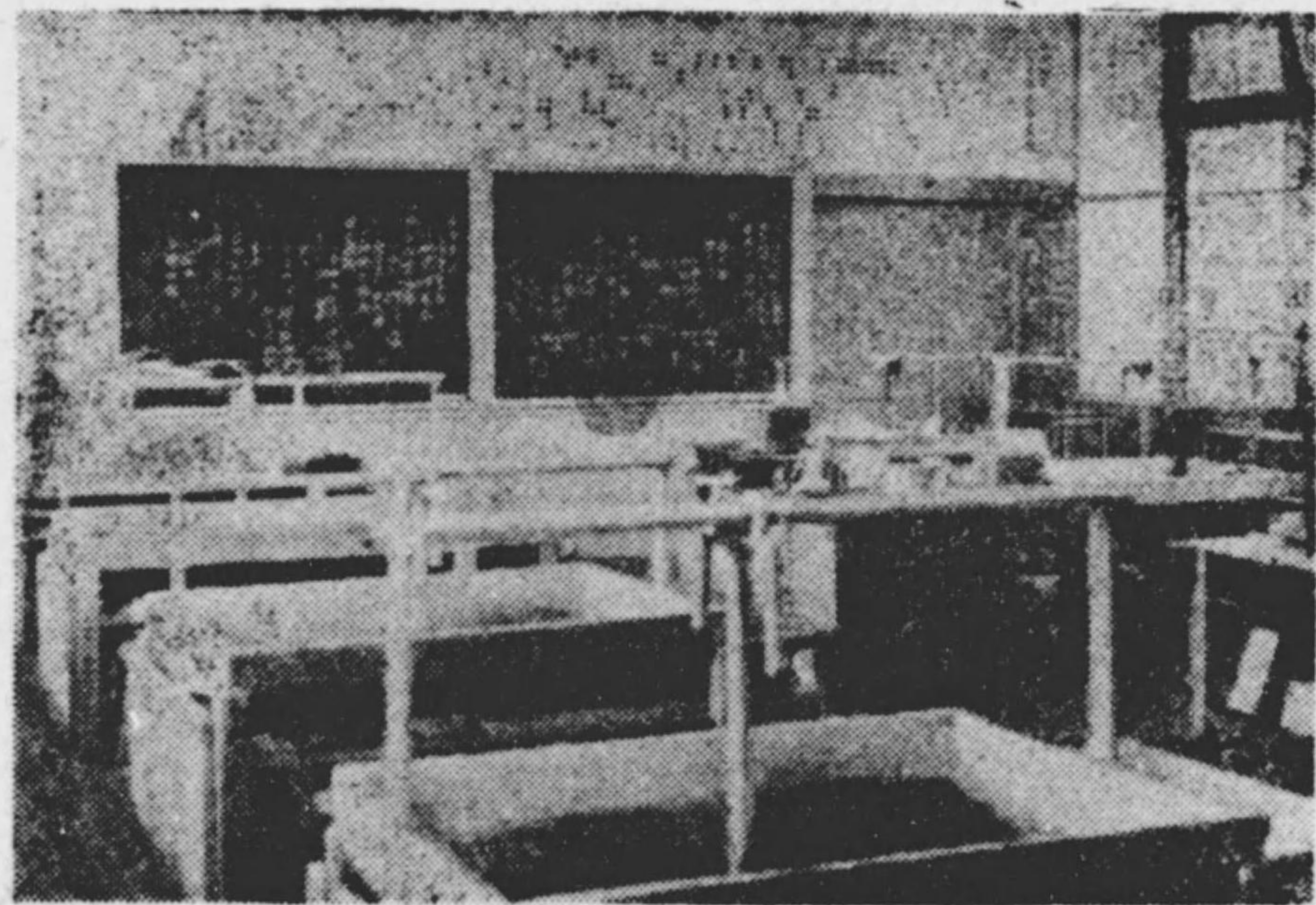
- イ 裁縫教育に必要な圖書
- ロ 各種標本
- ハ 標本揭示板

- ニ 掛 圖
- ホ 各種ミシン
- ヘ 方眼黒板
- ト 小黒板
- チ 三面鏡
- リ 作品、鑑賞戸棚
- ヌ その他裁縫教育に必要な用具

8 割烹實習室及び綜合家政室

家事及び裁縫の基礎の力を十分に體得させ、創造工夫の能を啓培し、家庭生活の能を體得させ、家庭生活の各方面において適正な處置をなし得るよき家庭婦人たらしめることを目標として施設經營をする。

- (1) 割烹實習室
- イ 割烹實習臺
- ロ その他割烹實習に必要な用具



部一の室習烹割

當校教育の概要

(2) 綜合家政室

- イ 家事教育に必要な圖書、標本及び器具
- ロ 衣類管理の實習に必要な用具、大机、藥品

三 一般教授施設

1 觀察園

低學年の自然の觀察及び高學年理科の觀察指導に供する。

- イ 各種觀察用植物の栽培
- ロ 觀察用動物の飼育
- ハ 鑑賞用植物の栽培
- ニ 教材用植物の栽培
- ホ その他校内にある樹木には名稱及び産地・特徴を記し、直觀教育を行ふ。

2 農園

觀察園と相俟つて教授の効果を發揮し、かつ食糧増産の國策に副ひ心身鍊成に資する。



觀察園の一部 (秋の種まき—初等科第一學年)

- イ 各學級に凡そ一アール宛分配當し、國家の要求と學年の程度とを考慮して栽培する。
- ロ 耕作栽培の指導督勵、勤勞愛好の習慣の養成
- ハ 收穫物の教育的、經濟的處理

3 時局認識施設

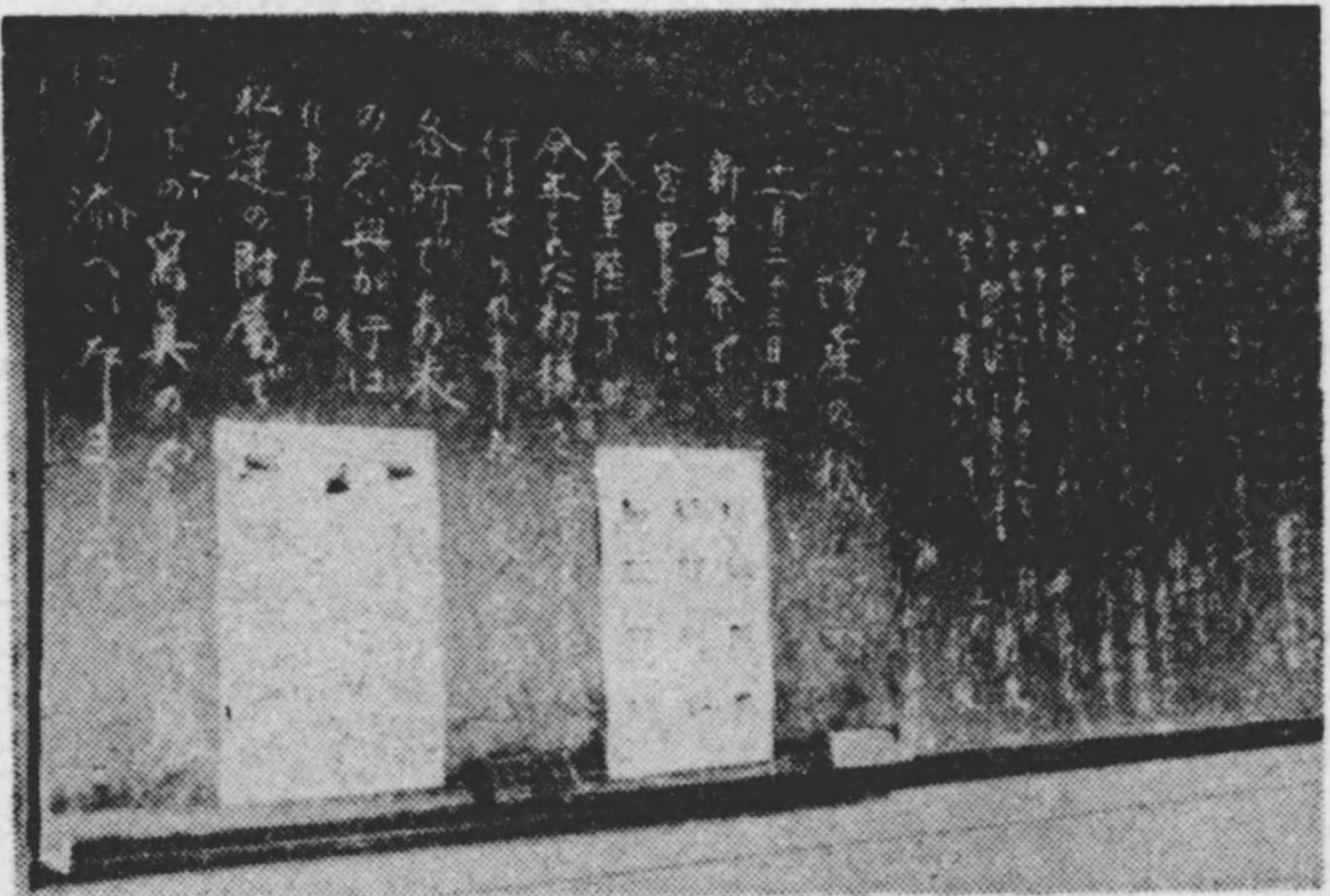
時局の重大性とその推移についての認識を深め、國民としての覺悟の養成につとめる。

- イ 興亞室の經營
- ロ 寫眞、地圖の掲示による直觀教育
- ハ 主事訓話(隨時)
- ニ 週番の時局講話
毎週金曜日、週番は勤務週中の時局の推移或は時局問題につき體鍊館にて合同朝會の折に講話し、時局を認識させる。

ホ 行事表の活用

學級行事板に各種記念日、その他一般に國家・郷土・學校の生活行事豫定を記入し、時局

五 當校教育活動の運営形態



寫眞も入れられる指示教育

の認識とその生活實踐とを計画的にする。

4 揭示教育

國民學校としての揭示教育を考へて、毎週統一ある目標の下に國民科、理數科、藝能科、體鍊科、實業科の五教科方面より、夫々具體的、直觀的に兒童に適切な指示をする。

5 ラジオ教育

各教室にはスピーカを、校内重要個所には擴聲機を備へつけ、次の如く利用する。

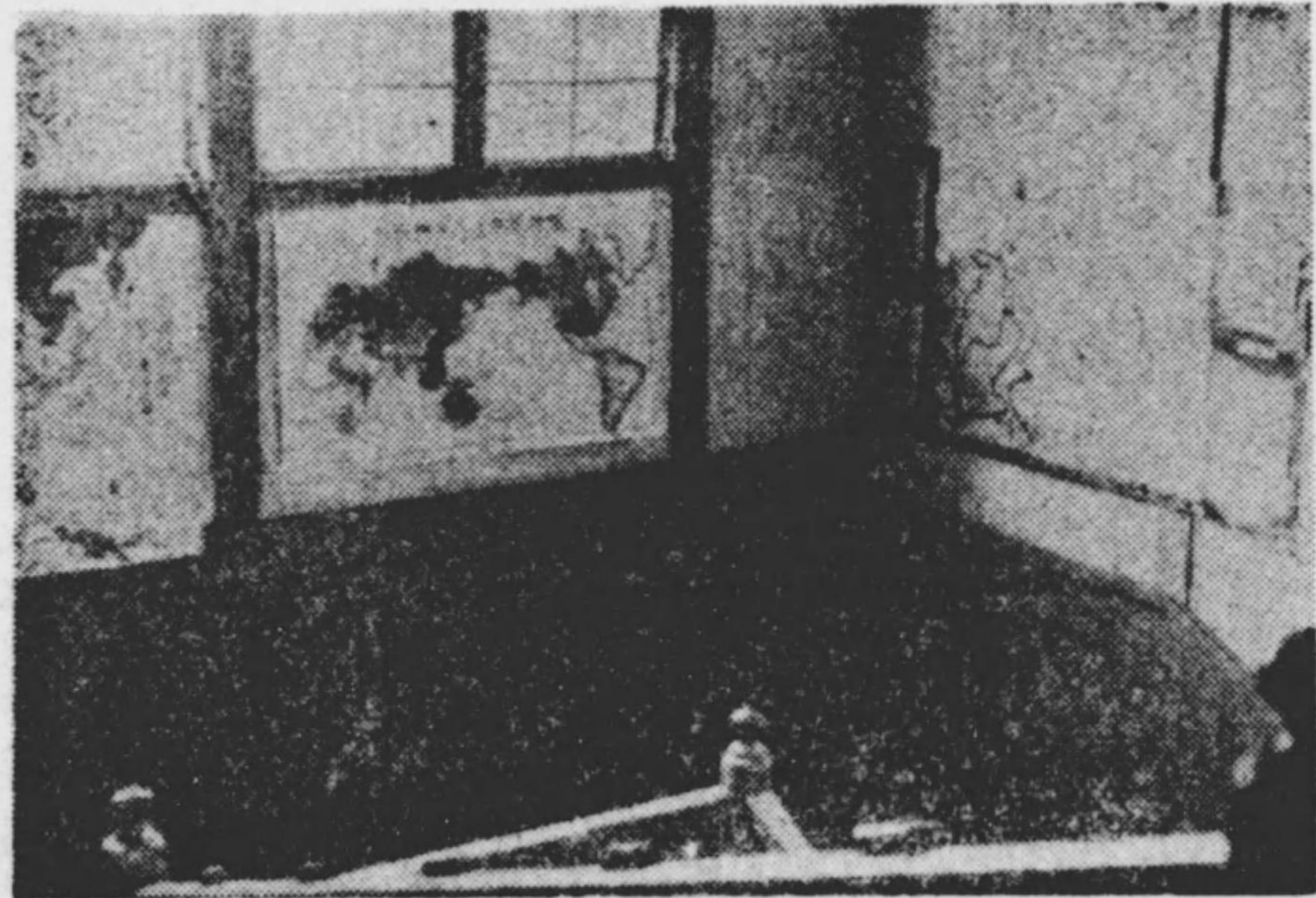
イ 朝禮訓話の聴取

ロ 文部大臣の指定許可せる放送種目の聴取

各學年教科の教育に必要な學校放送の種目を選定して聴取させる。

6 映畫教育

映寫機、映寫幕を備へつけ、映畫による直觀、時局の教育を行ふ。



階段側壁利用の時局地圖揭示

四 校外教授

自然觀察、郷土の觀察、寫生その他必要に應じ、次の如く校外に引率して教育する。

自然の觀察

佐保川堤、佐保山、奈良公園、春日奥山等

郷土の觀察

若草山、平城宮址、市内三條通、東大寺、興福寺

春日神社、手向山、八幡宮、皇室博物館、商工館

省線奈良驛、關急奈良驛、製墨工場、市場、その

他工場商店等

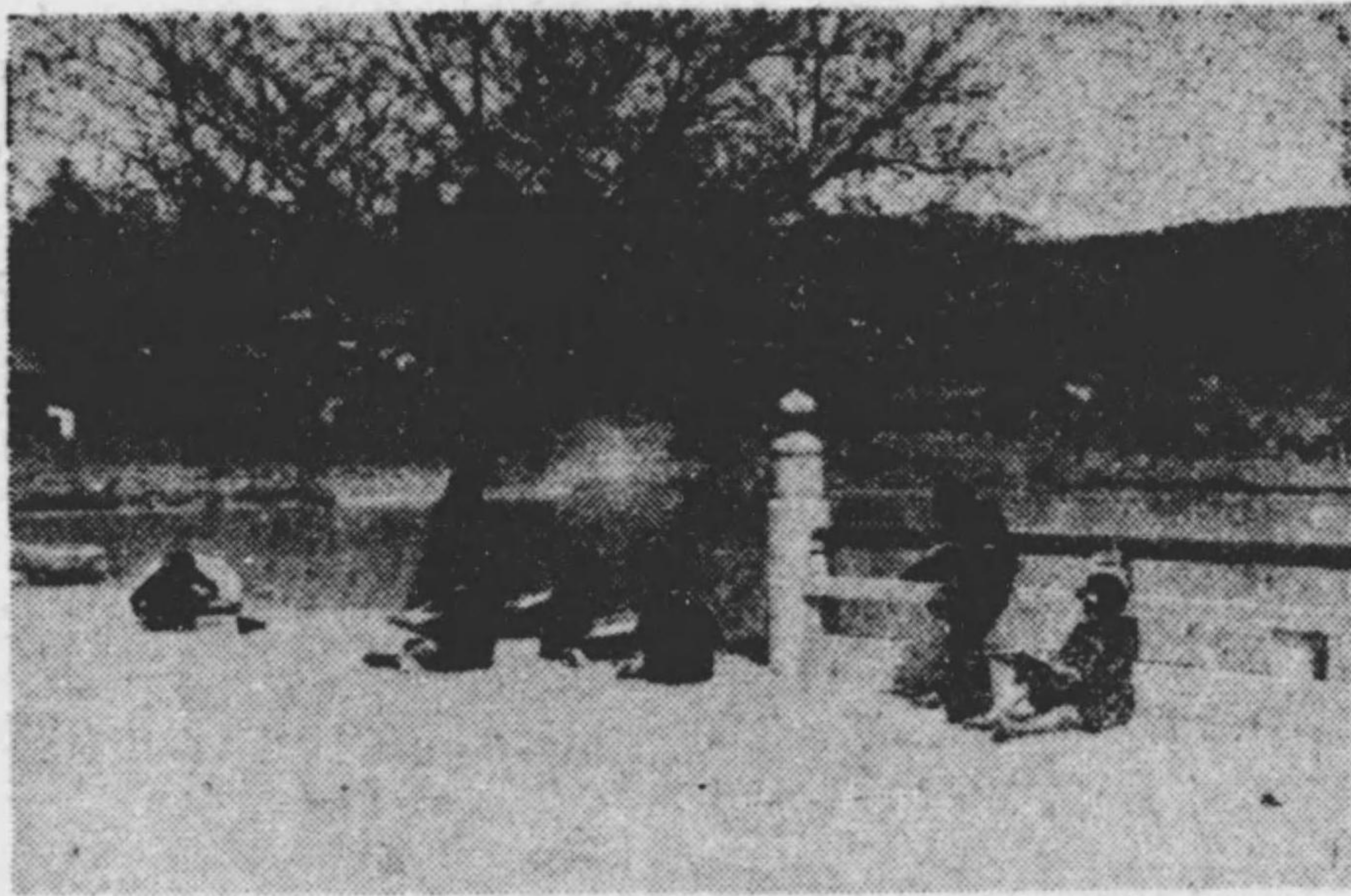
寫生

猿澤池、奈良公園等

五 學藝會

1 學級學藝會

隨時に各學級にて擔任教官、教科擔任教官指導の下に行ふ。



校外寫生

2 行事關聯學藝發表會

毎月一回 その月の主要行事に取材した學藝發表を、各學級に配當して行ひ、全校兒童に見させて、發表力を練り、行事の理會を深める。

四月 靖國神社大祭、天長節、健康週間

五月 開校記念日、聖武天皇祭、端午の節供

海軍記念日、遠足、青少年學徒ニ賜ハ

リタル勅語下賜記念日、防火防空演習

防諜週間

六月 ムシ齒豫防日、梅雨、時の記念日

七月 支那事變記念日、七夕、お盆、土用、

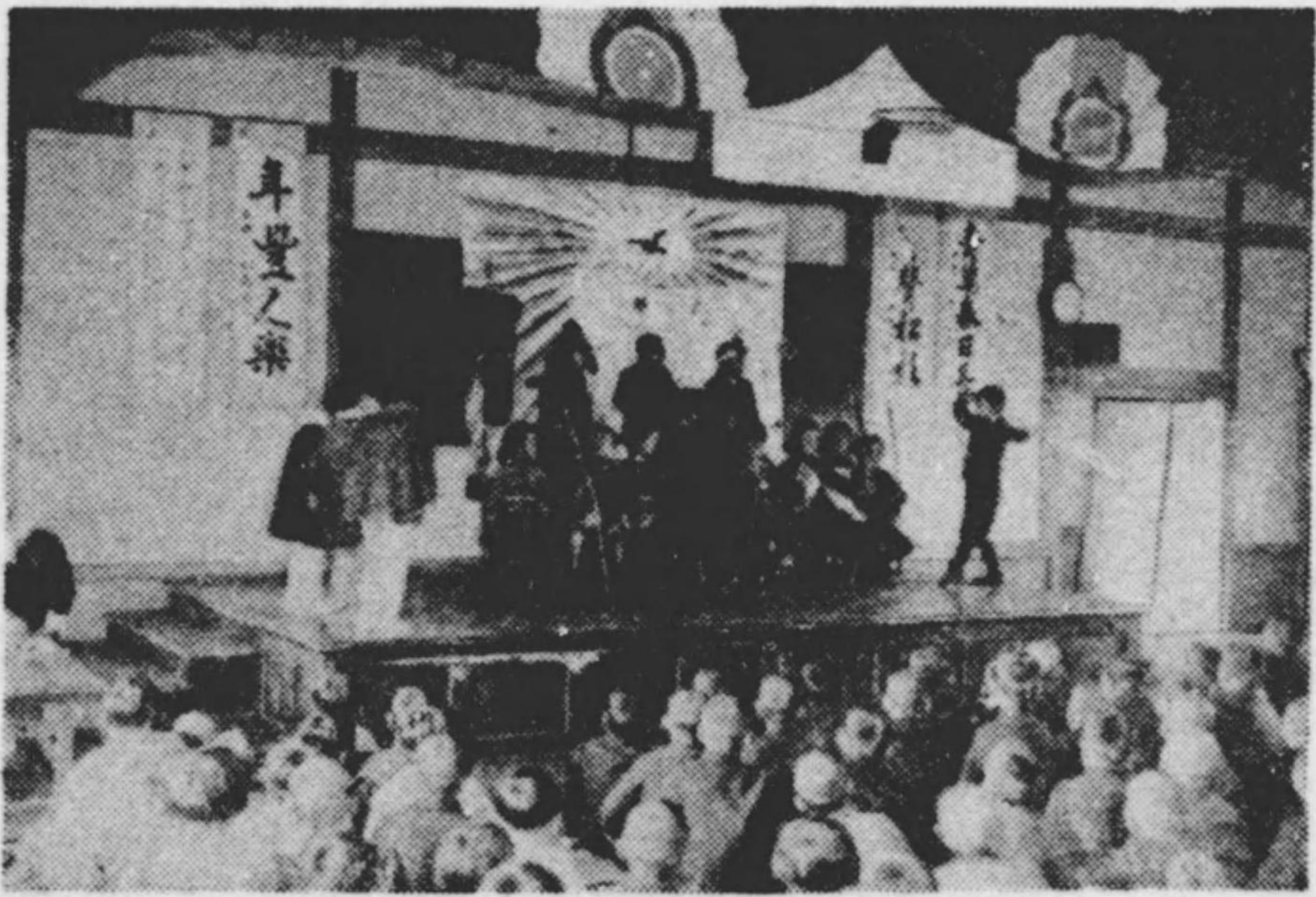
海の記念日

九月 二十日、震災記念日、お彼岸、滿洲

事變記念日、航空日

十月 運動會、遠足、神嘗祭、お月見

十一月 明治節、新嘗祭



學藝會

3 大學藝會

平素の學習の成果を發表して、兒童及び保護者に觀覽させ、發表力を練り、理會を深め、保護者に教育の内容を知らせる。

イ 内容 平素の學習、日常生活、時局に關係深きものを取り、出來得る限り兒童に創作、

演出、作歌、作曲させる。

ロ 種目 なるべく全教科に亘るやうにする。

ハ 演技 兒童の純眞性を失はぬやうにする。

ニ 出演者 全兒童

ホ 服装並に準備 無駄を省き、廢品を利用し、出來るだけ質素にする。

六 遠足及び旅行

心身の鍛鍊、團體訓練、公衆道德の修練を兼ねて直觀教育のために、各學期毎に次の如き目的

地を選んで遠足及び旅行を行ふ。

イ 敬神崇祖の念を涵養する土地

ロ 國史、地理、理科の直觀教育を行ふに適切なる土地

伊勢神宮、橿原神宮、飛鳥地方、比叡山、京都市、神戸市及びその附近、あやめ池等

このためには次の如き方法にて行ふ。

1 教育目的、豫定の立案

2 事前の教育

3 豫め目的地について兒童に研究させておき、必要なる豫備教育をする。

ハ 途中及び目的地にての指導

現地において主任教官、随時に教科研究教官が指導して理會を深める。

ニ 歸校後の整理反省

歸校後學習の整理反省をさせ、爾後の注意を行ふ。

(二) 訓 育

一 訓育の方針

國家と喜憂を同じくし肇國精神具現のために私を捨てて公に奉ずる國士的人物の育成を期す。

1 教官は協力一致、率先躬行して兒童に範を示し、師弟同行により臣道を實踐する。

2 學校生活の全體を訓育の機會として、系統的に道徳的情操を醇化し、實行力を練り、進んで自ら我が身を修める態度を養ふ。

二 訓育施設とその運営

1 國體明徴に関する特殊施設

イ 毎朝の朝禮における宮城遙拜

ロ 教室の御額敬禮

ハ 奈良市内並に近郊の皇陵參拜

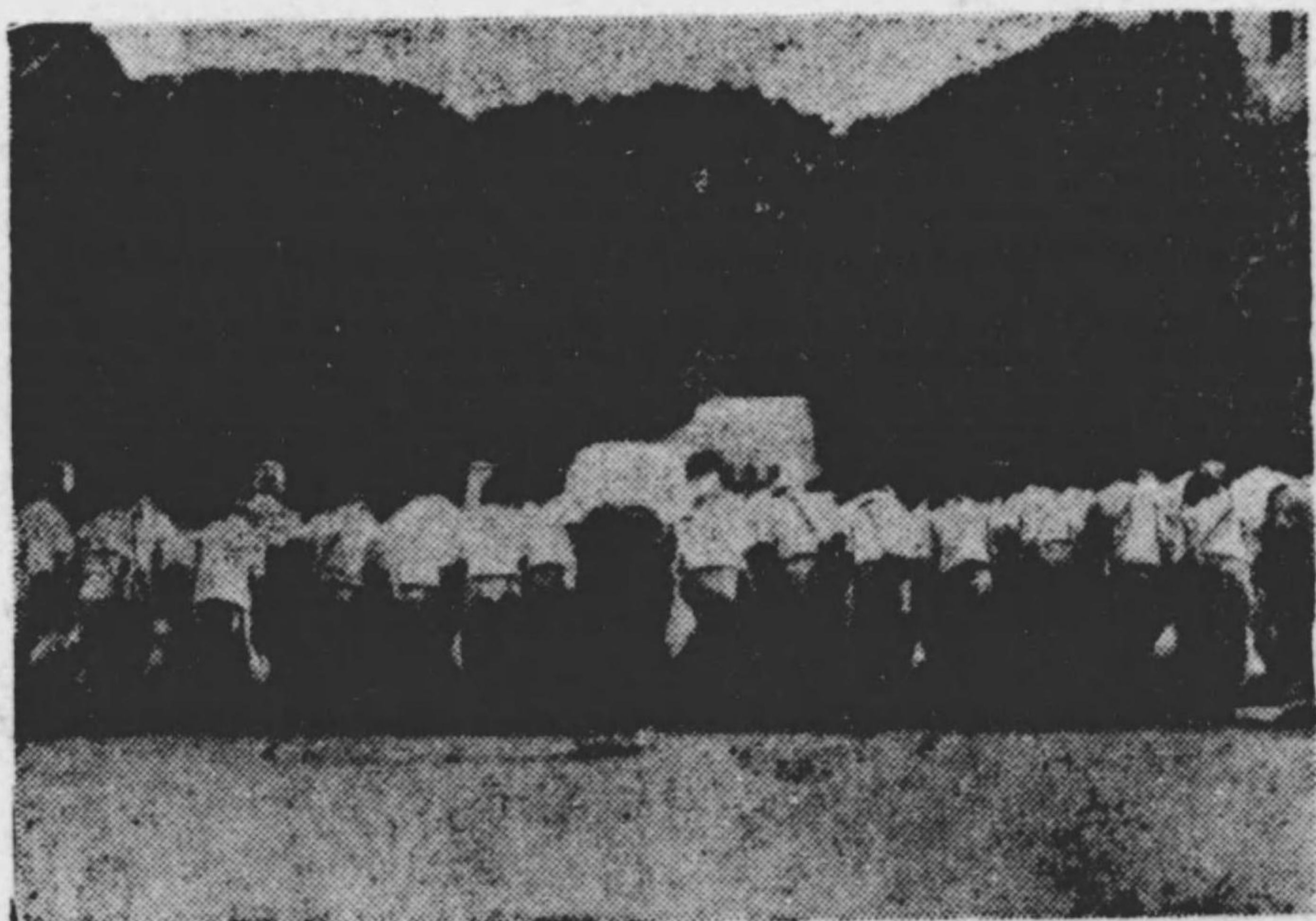
ニ 國旗掲揚

興亞奉公日、その他必要と認むる日

2 國策に関する訓練

イ 増産勤勞

五 當校教育活動の運営形態



皇 陵 參 拜

農園作業

労働實習

長期に亘り授業を行はない場合、高等科兒童に工場、商店、家庭で行はせる。

増産勤勞奉仕

貯蓄勸行

學校備へ付の献金箱による献金

家庭貯蓄の奨励

ハ 廢品、屑鐵等の蒐集

賣上代金は献金等に充てる

ニ 防諜訓練

ホ 週番の時局講話（教授施設を参照）

3 皇軍に對する訓練

イ 出征、歸還の歡送迎

ロ 軍旗祭參列

ハ 陸軍墓地、護國神社參拜



農園に於ける勤勞

ニ 慰靈祭參列

春秋の定期慰靈祭には全校參拜、臨時の慰靈祭には初四以上の代表學級が參拜する。

ホ 慰問文、慰問袋の發送

4 敬神崇祖の訓練

次の如き機會に神社に參拜し、敬神崇祖の訓練をする。

イ 年度始と終

全校春日神社に參拜、玉串を奉獻して學修の祈願と奉告をする。

ロ 興亞奉公日

始業前に市内神社を巡拜して戰勝を祈願し、長期聖戰遂行の心構へを誓はせる。

ハ 春日神社例大祭參拜

三月十三日 官祭

十二月十七日 私祭

5 式日、記念日の訓練

イ 四大節及び皇后陛下御誕辰祝賀式、皇太后陛下御誕辰祝賀式

ロ 各種記念式

五 當校教育活動の運営形態

ハ 勅語・詔書・令旨下賜記念日、陸海空軍記念日、大東亞戦争記念日等

ニ 開校記念日

五月一日

6 学校における日常禮法の訓練

イ 教室の禮法

入退室の場合に出入口にて敬禮し、朝會終禮の際には正面の御額に敬禮する。授業の始終には教師に敬禮する。

四年以上の男兒學級は當番兒童の號令による。

二年、三年及び四年以上の女兒學級は學級にて定めた合圖による。

一年は教師の指圖による。

ロ 食事の禮法

午前の課業終了後十分の間に手を洗ひ用意をなし、二十分間を食事の時間とする。木曜の教官會食の日を除き、教師は兒童と會食し、食前食後には感謝の念を表させる。

教師は常に注意して姿勢、態度、咀嚼等について指導する。

7 清掃作業

イ 普通清掃作業

全校一齊に、午後の課業前二十分間（午前にて課業の終る場合は課業終了後）校舎、校庭の清掃作業を行ふ。

ロ 大清掃作業

毎月一同月末、及び學期の始終に約一時間に亘り行ふ。

ハ 校門より玄關に至る地域及び校門沿ひの道路の清掃作業は朝夕二回に行ふ。

8 登校下校の際の訓練

イ 登校

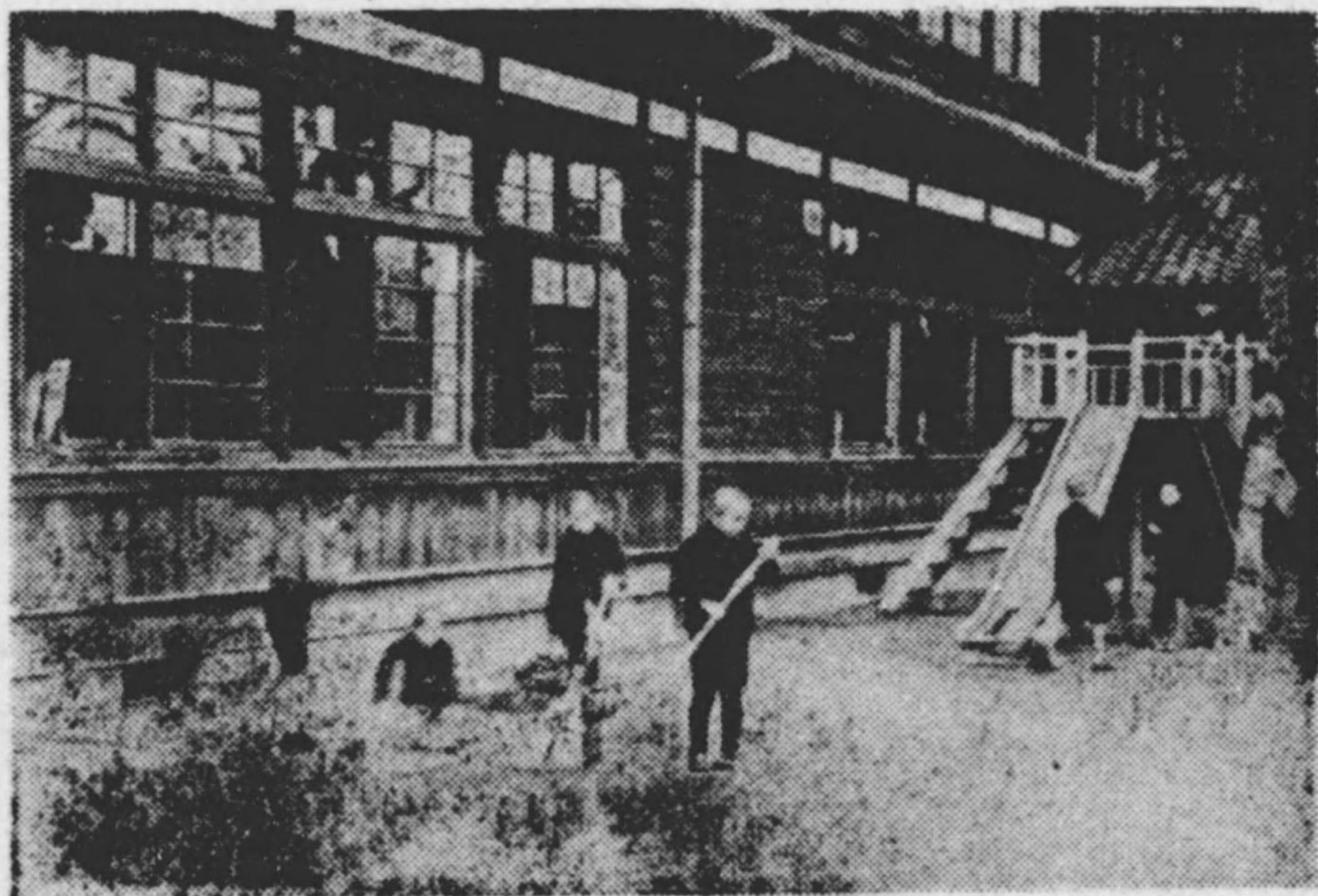
朝禮開始二十分前までに登校するを本體とし、遅くとも五分前の用意のベルが鳴るまでに登校する

ロ 下校

終業後特別の事情なき限り二十分以内に下校する

ハ 校門にての敬禮

五 當校教育活動の運営形態



全一齊清掃作業

登校下校時、校門にて敬禮する。

ニ 途 中

左側を一行にて通行し交通道徳を守らせる。

9 防護訓練(防空、防火、避難)訓練

イ 附屬高等女學校第二部と合し、防護團を組織する。

ロ 組 織

本部、警報隊、防火防毒隊、警備隊、救護隊、運搬隊

ハ 初五以上の男兒は各隊に配屬せられ、防護活動に参加する。

ニ 毎學期一同及び臨時に防護訓練を行ふ。

ホ 必要に應じて非常の際の心構を教育する。特に防空防毒に關しては必要な科學教育と作業を課し、國民防空の實をあげるにつとめる。

10 校外兒童分團組織と訓練(一四頁校外訓練組織參照)

イ 兒童の通學區域により、東、西、南、北、中央の五分團を組織する。

ロ 各分團は夫々相互の協同によつて風紀の改善、防護の安全を期せしめる。

ハ 下校の際には各分團別に一行に並んで左側を歩かせる。

ニ 各分團には教官の係を定め、以上の訓練の實績向上を圖る。

11 學校園一齊作業

イ 各分擔區域につき行ふ。

ロ 平素は特設體鍊時間又は放課後行ふ。

ハ 興亞奉公日、増産強調週間、その他必要に應じ全校一齊に行ふ。

12 奉仕作業

イ 御陵地域の清掃作業

ロ 佐保川堤防樹木の除蟲手入

ハ 出征將兵家庭への奉仕作業

ニ 増産奉仕作業

13 野外合宿訓練

(初五以上の男兒に試みる豫定)

三 訓練に關する職員勤務

イ 週 番

當番週間の實行事項の徹底を圖り、週間行事の運営、諸集會の指揮に當ると共に、訓育

の徹底に當る。始業前三十分前に出勤し、児童退出後下校する。

ロ 訓練部員

訓練計畫運営につき常に工夫努力する。

(三) 體 育

一 體育の方針

剛健にして強靱なる身體を育成して献身奉公の實踐力を養ひ、以て我が國力發展の根基に培ふ。

1 兒童身體の發育に留意して、養護と鍛鍊とにより、困苦缺乏に耐へる身體と、堅忍不拔・進取敢爲の意志とを鍊成する。

2 健全なる身體が國防の重要な要素であることを自覺させ、自發的、積極的に身體を鍛鍊する習慣を涵養する。

3 團體的訓練を重視して、協同を尙ぶの習慣に導き、服從の精神を涵養する。

二 體育の施設とその運営

1 身體検査

イ 四月中旬、各學級を單位として行ふ。

ロ 身長、體重、胸圍、坐高は學級主任において醫師の身體検査以前に測定しておく。

ハ 醫師の身體検査には各學級主任は必ず參加する。

ニ 各學級の身體検査統計表は、學級主任にて作成する。

ホ 體鍊部主任は、學級主任より身體検査統計表を受理し、これによつて全校身體検査統計表及び累年の體位比較圖表を作成し、體位向上の施設經營に施する。

ヘ 身體検査の結果は通知票により家庭に通知すると共に、榮養「要注意」概評「要養護」その他、疾病異常あるものに對しては、運動、體鍊科授業時に指導を考慮すると共に、それれく家庭に通知、協力して矯正治療につとめる。

2 夏期鍛鍊

イ 夏期授業を行はざる全期間を通じ、全體的又は部分的に夏期特別鍛鍊を行ふ。

ロ 臨海學舎

期間中の前期に、初等科四年以上の兒童を、五日間臨海學舎に收容し心身の修練を行ふ。

3 全校園體育大會

十月中において、奈良女子高等師範學校全校園の體育大會を開催する。平素學習せる遊戲、競技、體操、武道の發表を本體とする。

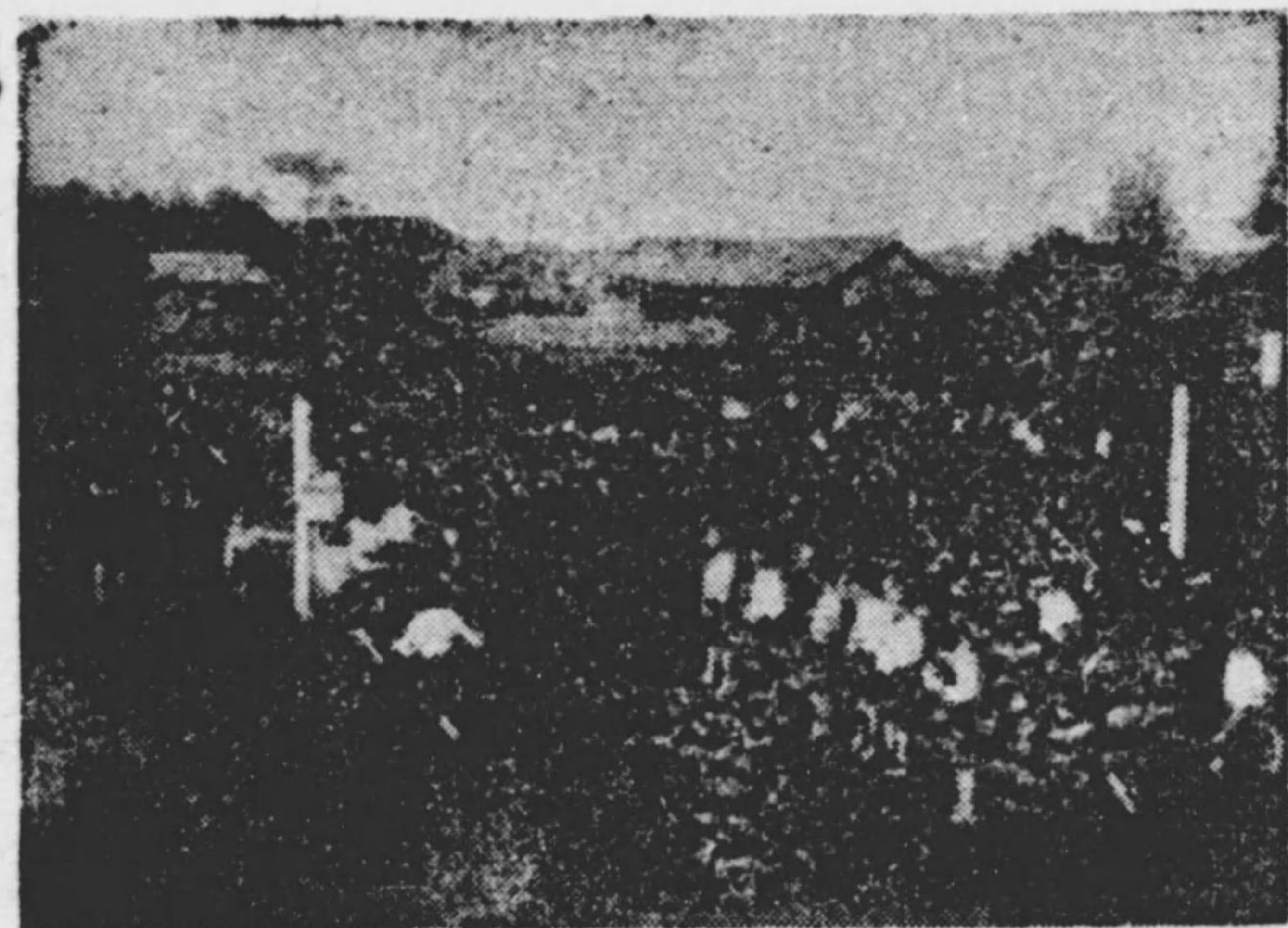
4 事變記念日強歩訓練

毎月七日（事變記念日）學年の程度に應じた強歩訓練を行ふ。

5 耐寒強歩訓練



練訓歩強の原平和大く街を風寒



練體のてに場動運西

イ 毎年大寒中十日間行ふ。

ロ 九日間は若草山登山（約六軒）を行ひ課業の第一時限を之に充てる。

ハ 納會（最終日）は大和盆地一周約四十六軒を強行軍させる。

學年並に兒童身體の情況に應じ、歩行距離を定め訓練の適正を圖る。

6 特設體鍊時間

イ 第二時限と第三時限の間の十五分を充てる。

ロ 體鍊主任又は學級主任の指揮により行ふ。

ハ 體鍊の種目

月水金（東運動場） 正常歩による團體行進、合同體操、その他の團體訓練

火木土（西運動場） 遊戯、體操、作業等

7 校醫との連絡

イ 醫師の身體検査の期日、時間

ロ 身體検査の結果に關する處置

ハ 不時傷病兒童の臨機應急の處置

ニ 學童又はその家庭に急性傳染病の發生せる場合の處置

五 當校教育活動の運営形態

ホ 學校に於ける運動、養護施設、看護衛生の指導に關する相談

8 體鍊設備

高鐵棒及び低鐵棒、砂場、跳躍用横木掛臺、籠球・排球・庭球コート、體鍊館、懸垂用竹棒、肋木、吊環、梁木、木刀及び薙刀、跳箱、平均臺、腰掛、擊突臺、投擲用短棒、行進用レコード、蓄音機、擴聲機、その他運動體鍊用具

9 衛生設備

イ 靜養室の經營

ロ 衛生器具及び材料の整備保管

ハ 驅虫剤の服用、ツベルクソンの皮内注射(保健所醫師)、各豫防注射(校醫)、その他學校衛生の全般についてその徹底化を圖る。

10 體力検査

別に定むる種目及び標準により、年二回體力検査を實施し、自己の體力を自覺せしめると共に、自發的に體力向上を圖るやう指導する。

11 體育週間

神宮大會を中心として國家的體育大會に参加する意味を以て計畫し、體力鍊磨を圖る。

六 各學年の經營方針

(一) 初 等 科

一 初等科の兒童。

- 1 入學希望者より定員數を選抜して入學を許可する。
- 2 奈良市在住の者が大部分で、縣下各地、他府縣より通學する者もある。
- 3 概して保護者は教育に理解あり、且つ熱心である。
- 4 初等科修了兒童の殆ど大部分は中等學校進學を希望する。

二 第一期(第一・二學年)の經營方針

- 1 學校生活になれさせ、學修態度の基礎鍊成をする。
- 2 學校と家庭との緊密な連絡の下に、兒童の家庭における生活を教育に生かし、保護者教育により學校家庭一體となつて、善良な習慣を體得させるにつとめる。
- 3 具體的・未分化的・郷土的な兒童生活に即する教育を行ふ。
 - イ 第一學年においては全部又は一部の教科及び科目につき綜合授業を行ふ。

- 特に室外の教育を重んじ、實物實際實地について指導をする。
- 4 身體についての關心を促し、衛生鍛錬は、つとめて自發的に行はせる。

三 第二期（第三學年）の經營方針

- 1 第一期より第三期に至る過渡期として、共同生活における相互の磨勵により、共同責任の念を養ひ、自發的修練態度の基礎を確立する。
- 2 男女の特性を顧慮して取扱ひ、團體訓練を重んじ自發的活動の助長深化を圖る。
- 3 郷土體驗を擴大發展させると共に、教科、科目につき、系統的、組織的に學習する態度を養ふ。
- 4 勤勞作業を重んじ、旺盛な身體活動を善導して身體を鍊磨し、國策へ挺身協力し得る身體の基礎修練をする。

四 第三期（第四・五・六學年）の經營方針

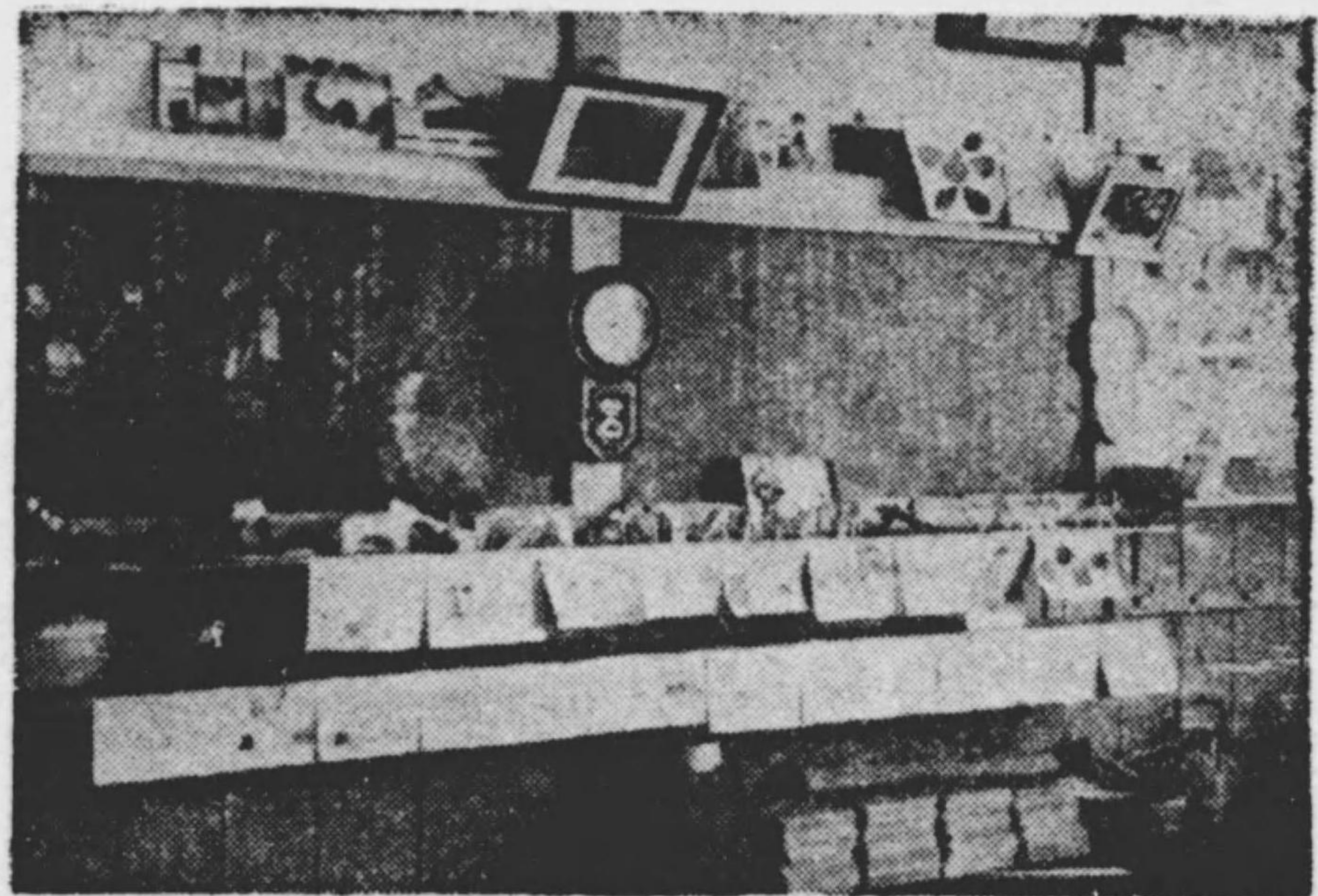
- 1 國家的觀念、國民的情意の振作昂揚を圖り、自覺的に修練する態度を確立する。
- 2 學級學校生活を通じて國家に奉公すべき自覺を深め、臣道實踐の基礎鍊成を圖る。
- 3 國民文化の創造發展上、個性の伸長の不可缺である所以を自覺させ、自發的積極的に工夫創造する態度の確立を期する。
- 4 心身の旺盛な活動を促し、集團的勤勞作業に積極的に參加する等、總じて集團的訓練の徹底を期する。

(二) 高等科

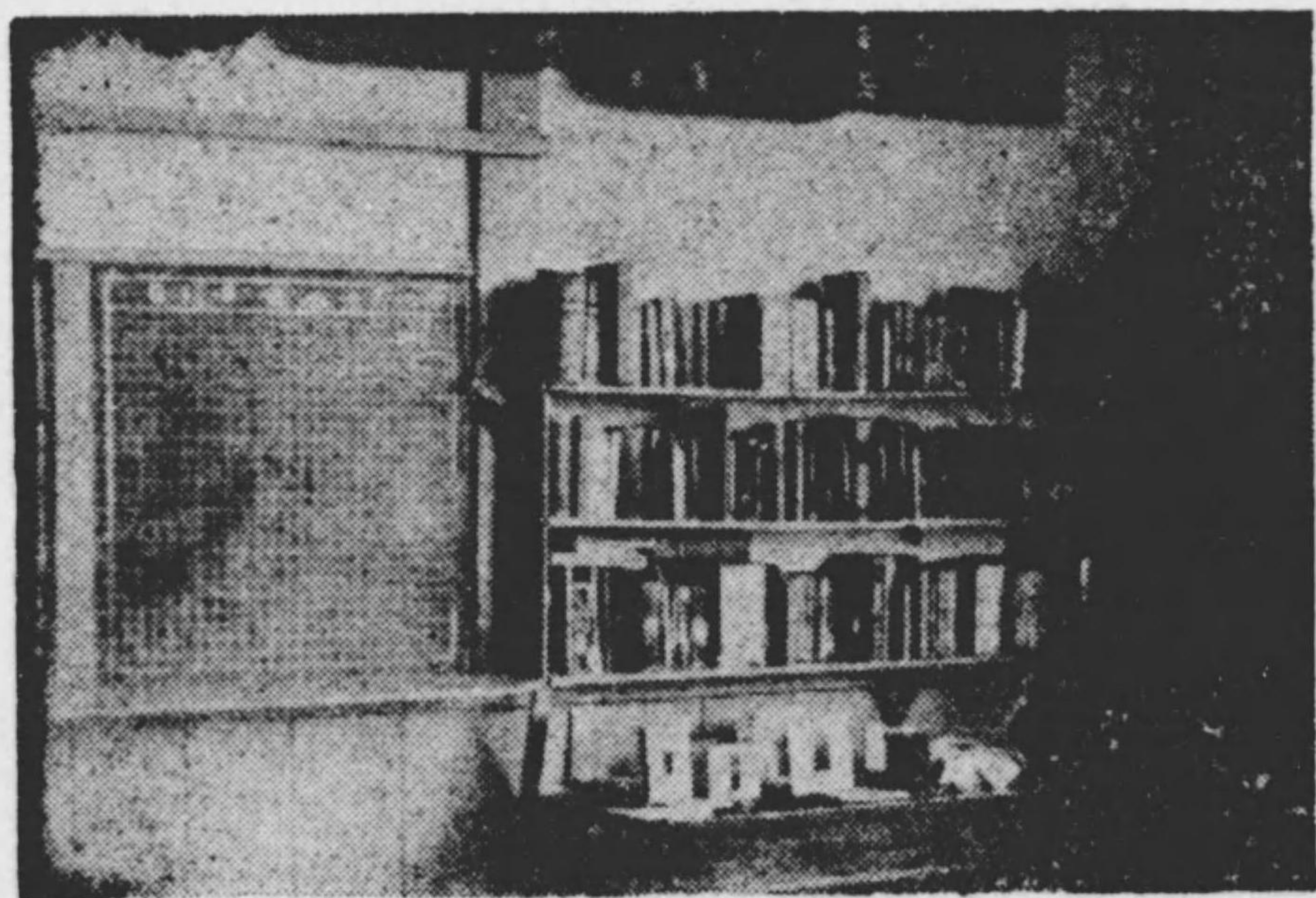
一 高等科の兒童

- 1 初等科修了の兒童は、大部分中等學校へ入學するので、市内各國民學校より兒童を募集する。
- 2 高等科を分つて男女の二學級とし、それ／＼第一學年、第二學年兒童を收容して複式學級を編制する。

二 第四期（高等科第一・二學年）の經營方針



部一の室教年一科等初



部一の室教年六科等初

- 1 高等科は市内各國民學校初等科終了兒童を收容するから、特に學級意識を強固にし、愛校心を養ひ、全校兒童の範たる自覺を持たせるにつとめる。
- 2 青年前期の特性に即し、初等科より程度を高めて皇國民としての鍊成を圖り、修了後の職業生活に應ずる教育を施す。
- 3 國民學校初等科における修練を基礎とし、自修と創造の態度を涵養するにつとめる。
- 4 團體訓練並に體鍊、作業を重んじ、滅私職域奉公の念を涵養する。
- 5 將來の職業生活に對し、本人の希望と素質に應じ、家庭並に國民職業指導所と聯絡を保つて適切なる指導を與へる。

七 行事計畫と實際

(一) 一日の行事

一朝 禮

始業前二十分前を標準として登校、學習用具の整頓後は特に任務ある者を除き運動場に出る。

朝禮 1 合圖により現在の位置に停止し、不動の姿勢をとる。

2 擴聲機より流れる行進曲に步調を合はせて校庭に整列する

3 宮城を遙拜する。

4 兒童代表の號令の下に教官に敬禮する。

體操 1 保健體操を行ふ。

2 行進曲に合はせて入室する。

訓話 火曜日金曜日に、體鍊館或は運動場に集合して行ふ。

火曜——主事訓話

金曜——週番教官の時局訓話

二 學級朝會

1 教室正面に奉掲せる御額に對し奉りて、誓詞を默誦しつゝ最敬禮

2 學級擔任教官に對して敬禮

3 月曜日には「教育ニ關スル勅語」又は「青少年學徒ニ賜ハリタル勅語」の謹誦

4 氏名點呼（適宜に所持品検査、衛生検査）

5 學級擔任教官の訓話

6 學級生活の反省と計畫（學級常會）

三 體鍊時間

1 第二時限終了後、五分間に準備し、直ちに集合して十分乃至十五分間行ふ。

2 月曜日、水曜日、金曜日

イ 東運動場に集合、整列

ロ 團體行進及び合同體操

3 火曜日、木曜日、土曜日

イ 西運動場に集合、整列

ロ 學級擔任指導により、遊戯、體操又は農園作業

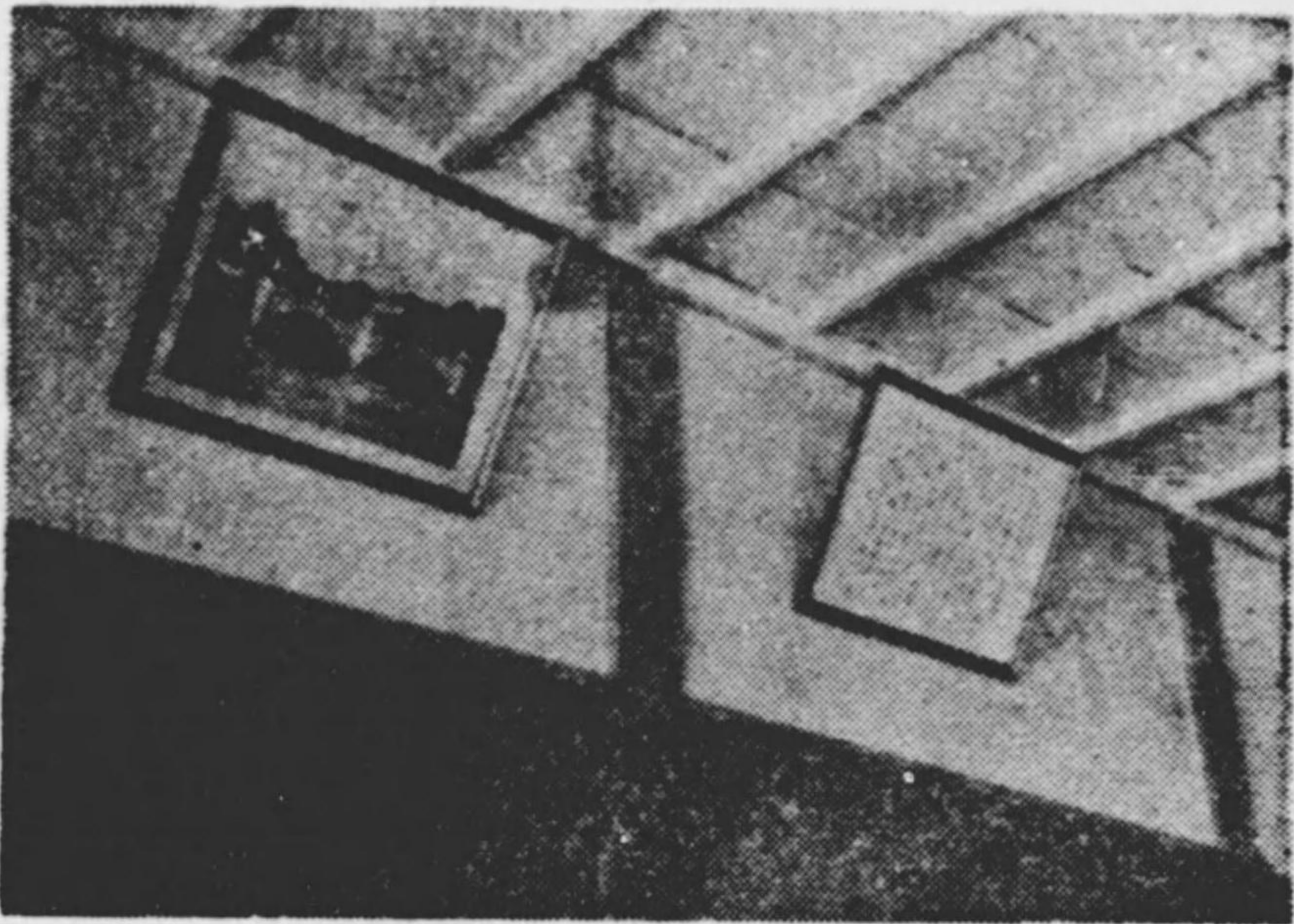
4 第三時限までの十分間には後仕末及び休憩

四 畫 食

1 午前の課業終了後十分間にて手を洗ひ湯茶を配る

2 食事禮法を守つて教官と會食（木曜日は教官會食日につき兒童のみにて會食）

3 學級當番により後始末



教室正面の御観

五 一齊清掃

1 午後の課業前二十分間（午前中にて課業の終る日は課業終了後）初等科三年以上の兒童と

教官一齊に校舎校庭の清掃作業を行ふ。

2 併せて教室の美化、整理、成績貼換等をする。

3 終了後教官檢閲。

六 終 禮

1 授業終了後、當日の反省、明日の準備の指示、注意等をする。

2 教室正面に奉掲せる御額に對し奉りて、誓詞を默誦しつゝ、最敬禮。

3 學級主任に對して敬禮。

4 授業終了後二十分までに下校。

(二) 一週の行事

一月曜日

1 各學級において朝會時に「教育ニ關スル勅語」又は「青少年學徒ニ賜ハリタル勅語」の謹誦

2 放課後、經營研究會又は教官運動

二 火曜日

朝禮訓話

七 行事計畫と實際

三 木曜日

- 1 教官會食及び週報研究会
- 2 放課後、教科研究会、揭示教育打合せ

四 金曜日

放課後、教官奉仕日

(三) 一月の行事

一 日 (興亞奉公日)

- 1 始業の一時前に登校し、市内の神社を月毎に巡拜
- 2 朝禮では、毎日行事の外、國旗掲揚、默禱を行ふ
- 3 主事の訓話
- 4 特に、増産勤勞、貯蓄勵行、廢品蒐集更生、慰問文發送、慰問袋作製等、興亞聖業への參加

七 日 (事變記念日)

強歩訓練 (詳細は別掲)

二十二日 (勅語下賜記念日)

- 1 國旗掲揚
- 2 「青少年學徒ニ賜ハリタル勅語」の一齊謹誦
- 3 児童分列式

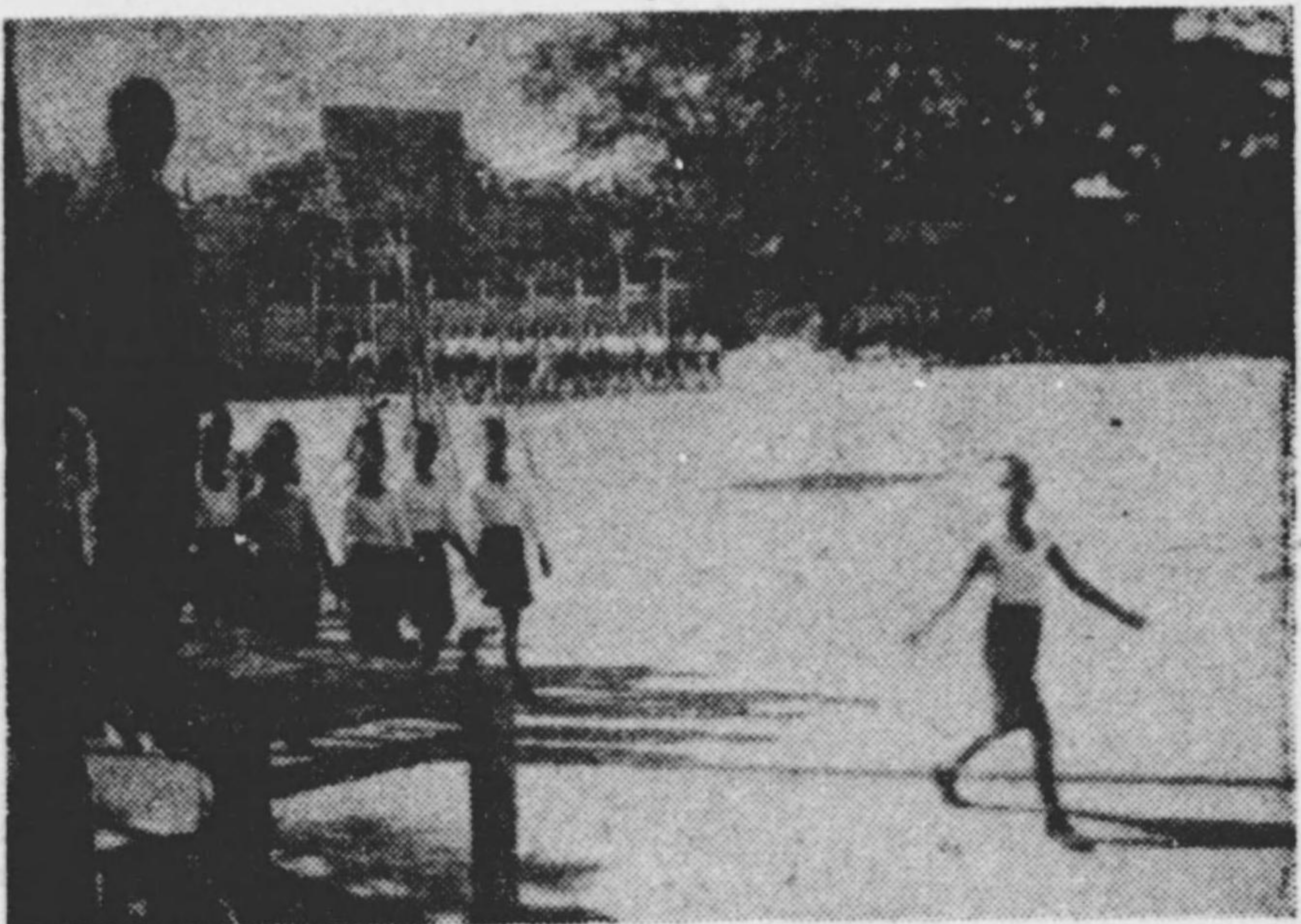
三十日 (勅語下賜記念日)

「教育ニ關スル勅語」の一齊謹誦

月 末

- 1 校地、校舎の大清掃
- 2 圖書、備品の整理
- 3 出席統計を統計係に報告、保護者に通知
- 4 月末會議——一ヶ月間の經營の反省と翌月の豫定計畫樹立

(四) 一年の行事



進 行 列 分

(行事名)

(摘)

要)

四月

五日 始業式

七日 入学式

九日 學年始神社參拜

十日 身體検査開始

二十九日 天長節

三十日 靖國神社祭

春日神社參拜(朝禮後約一時間)

時間割により各教室にて實施

式前訓話、儀式

學級訓話、揭示教育

五月

一日 開校記念日

二日 聖武天皇祭

五日 端午の節供

初旬 遠足

二十二日 青少年學徒に賜はりたる勅語下賜記念日

二十五日 楠公祭

二十七日 海軍記念日

記念式(授業なし)

東南院、東大寺、御陵參拜(授業なし)

鯉のぼりをたつ、揭示教育、學藝發表等別に定める案により實施

奉讀式、講話、児童分列式

學級訓話、揭示教育

記念講演、揭示教育、學藝發表等

六月

初旬 國民教育講習會

十日 時の記念日

中旬 保護者會

二十五日 皇太后陛下御誕辰祝賀式

講話、學藝發表等

表等

儀式、式前訓話(授業なし)

講話、強歩訓練、揭示教育

講話、揭示教育

育

育

育

育

七月

七日 支那事變記念日

二十日 海の記念日

第一期特別鍛鍊業開始

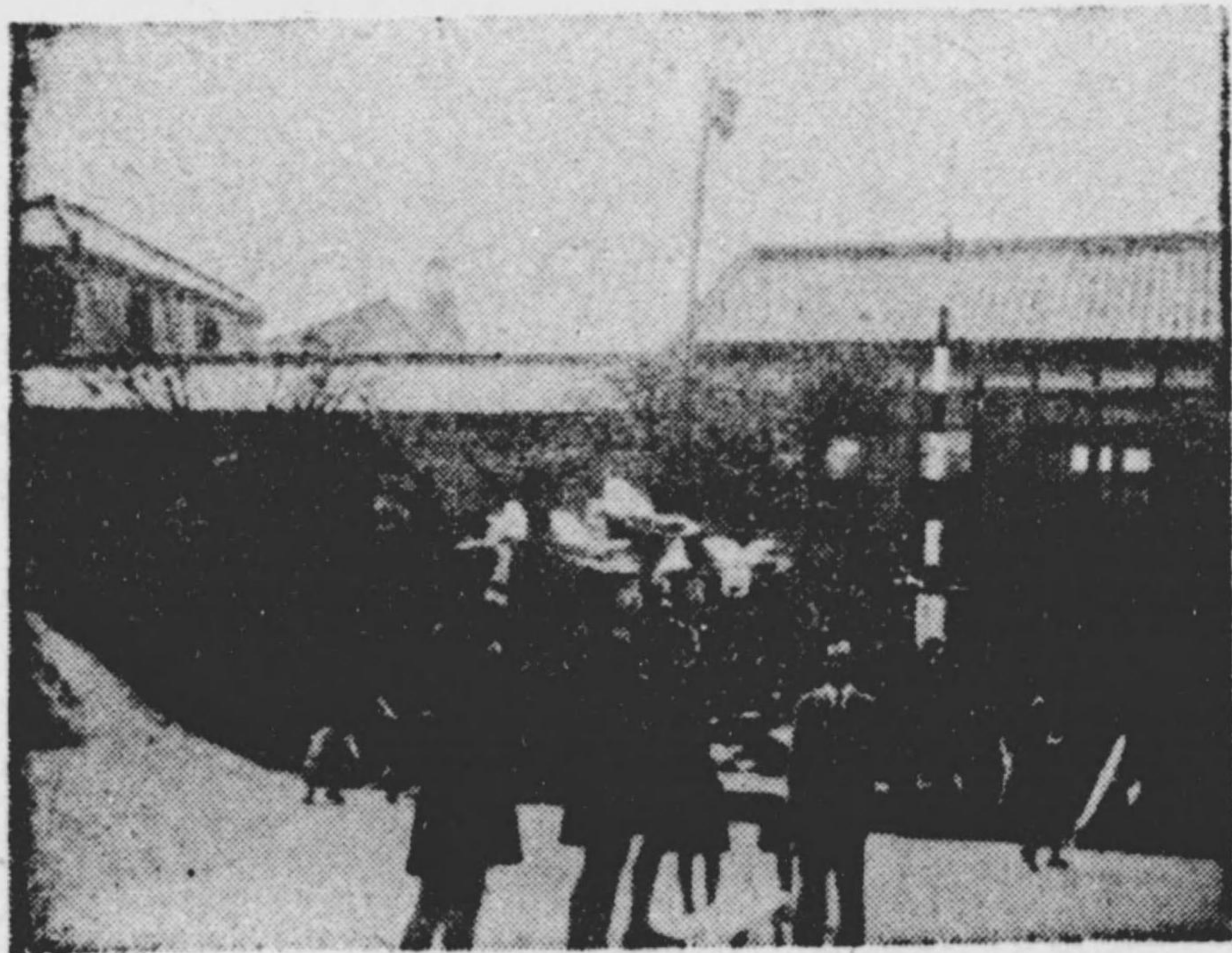
九月

一日 第二期授業開始

十三日 乃木祭

七 行事計畫と實際

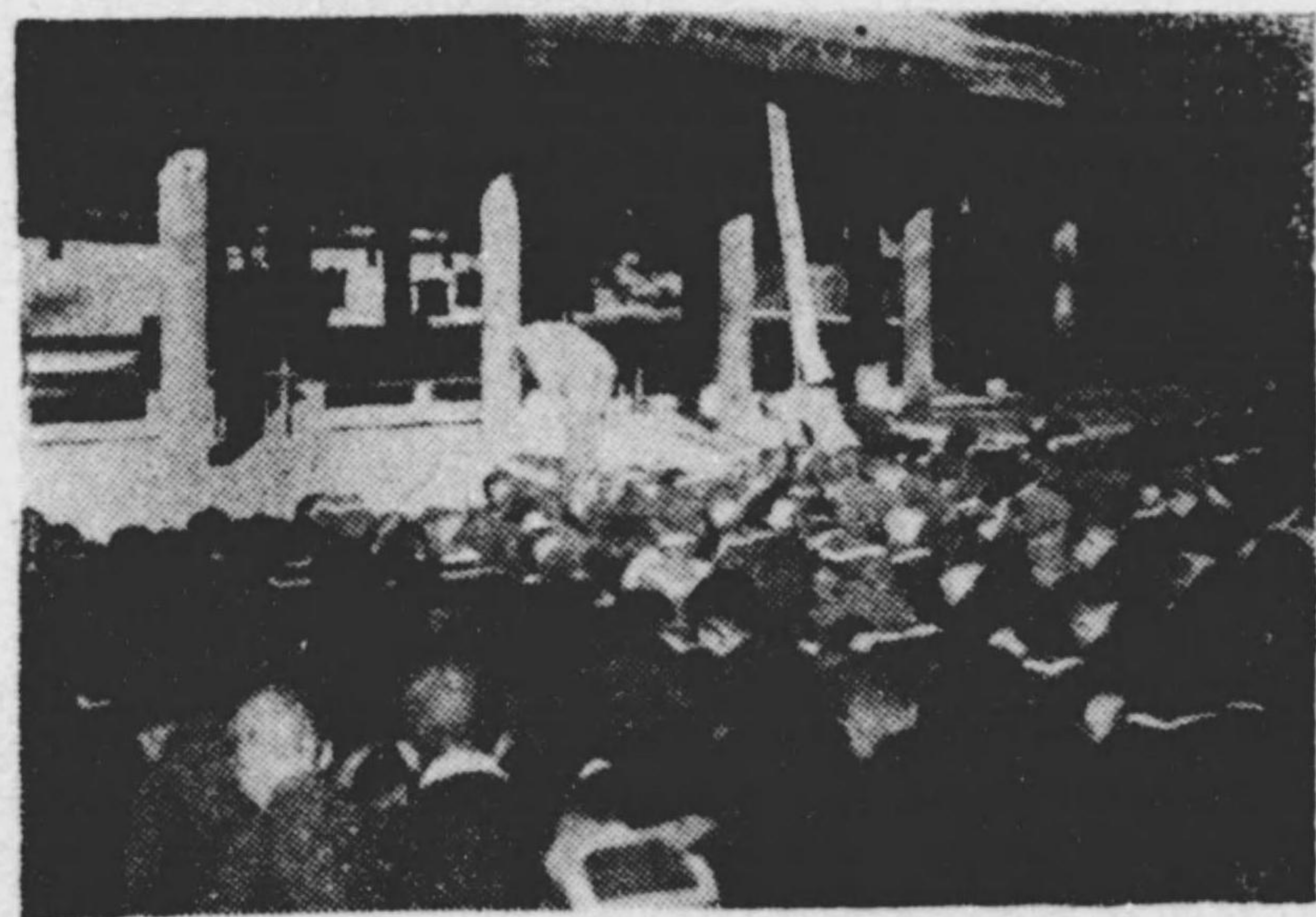
學級訓話、揭示教育



航空の日飛行大會

十八日	滿洲事變記念日	講話、揭示教育
二十日	航空日	記念講演、揭示教育
二十三日	模型航空機飛翔大會 秋季皇靈祭	初三以上模型機製作、飛翔競技を行ふ 前日訓話
三十日	軍人援護に関する勅語下賜記念日	奉讀式、講話
十一日	女高師校園體育會 戊申詔書下賜記念日	春日野運動場にて行ふ 奉讀式、講話
十三日	遠足	別に定める案により實施
十七日	神嘗祭	前日訓話
二十三日	靖國神社祭	學級訓話、遙拜
三十日	教育に関する勅語下賜記念日	奉讀式、講話
十一月三日	明治節	儀式、式前訓話（授業なし）
十一月十日	國民精神作興に関する詔書下賜記念日	體鍊行事を行ふ 奉讀式、訓話

中旬	國民教育研究協議會	前日訓話
二十三日	新嘗祭	講話、防火訓練、揭示教育 詔書奉讀式、訓話、 戰勝祈願
十一月八日	防火日	
十一月十七日	大東亞戰爭記念日	
十一月十七日	保護者會總會	
十一月十七日	春日神社若宮祭	參拜（授業なし）
十一月二十三日	皇太子殿下御誕辰	講話
十一月二十四日	第二學期授業終了	冬季特別鍛鍊開始
十一月二十五日	大正天皇祭	前日訓話
十一月一日	新一年	儀式
十一月七日	第三學期授業開始	別に定める計畫により實施
十一月七日	耐寒強歩訓練	
十一月十一日	紀元節	講話
十一月十一日	七行奉計畫と實際	儀式、式前訓話



（日八月二十年六十和昭）願祈勝戰てに社神日春

三月	十七日	新年祭	講話
	下旬	大學藝會	別に定める計畫により實施
一日		滿洲國建國記念日	講話、揭示教育
三日		雜祭	學級訓話
六日		皇后陛下御誕辰祝賀式	儀式、式前訓話(授業なし)
十日		陸軍記念日	記念講演 學藝發表、揭示教育
十三日		春日神社申祭	參拜(授業なし)
十六日		學年末神社參拜	四月に同じ
十八日		修了式	
二十一日		春季皇靈祭	前日訓話
二十四日		終業式	

八 教育の研究及び地方教育の指導

(一) 教育の研究

教官は、常に日本教育の本義並に方法について研究し、擔任學級、擔任教科の教育を行ふと共に、

教科研究部に屬して教科經營上の研究を行ふ。

一 教科研究會

- 1 各教科の教育並に指導法につき、研究發表並に研究授業を行ひ、且つそれに関し批評研究會を行ふ。

2 教科研究部員

國民科	河野伊三郎(國語) 鶴居滋一(地理、修身) 市川 代藏(地理、國史) 小野澤弘(國語) 中村 温子(國語) 小笠原ミチ雄(國語) 白井勇(國語、國史) 増田勳(修身、國語) 緒方明吉(國語) 高島喜雄(國史)
理數科	清水甚吾(算數) 池内房吉(算數) 横山誠司(理科) 千本木敏雄(理科) 今井正身(理科、算數) (神戸伊三郎(理科))
體煉科	川村英男(體操、武道) 高島喜雄(武道) 松本千代榮(體操、遊戲) 弘ミチ(雜刀)
藝能科	戸田忠吾(工作、圖畫) 河野伊三郎(習字) 中澤かゑめ(裁縫) 津山貴美子(裁縫) 鳥津俊一(圖畫、工作) 緒方明吉(習字) 佐藤きわ(家事) 宮田るい(裁縫) 松本千代榮(音楽)
實業科	戸田忠吾(工業) 土肥准二(農耕作業) 和田芳子(英語)

二 經營研究會

- 1 總務部、教務部、訓練部、體煉部において、それらの經營運用を理論的、實際的に研究

八 教育の研究及び地方教育の指導

する。

2 經營研究部員

總務部	清水甚吾	白井勇	今井正身	高島喜雄
教務部	河野伊三郎	小笠原まち雄	緒方明吉	
訓練部	池内房吉	増田勳	千本木敏雄	
體鍊部	鶴居滋一	川村英男	島津俊一	松本十代榮
計畫部	小笠原まち雄	白井勇	増田勳	島津俊一

(二) 地方教育の指導

- 1 授業の公開と質疑應答
特別の支障なき限り、授業を公開して、參觀を許可し、國民學校教育のあらゆる質問に解答する。
- 2 國民教育講習會
毎年(一乃至二回)國民教育講習會を開催し、研究の成果を發表する。
- 3 研究協議會
每年秋季國民教育研究協議會を開催し、全国各地方の推薦する教育者、希望者を會員として研



國民教育講習會



國民教育研究協議會

究協議を行ふ。

4 地方出張指導

地方の學校、教育會等の招聘に應じて出張し、教育問題、教育の理論、各科教育の方法、授業

八 教育の研究及び地方教育の指導

の實際につき指導する。

5 雑誌による研究の發表

「日本教育」・各學年用「國民教育」誌の依頼に應じ、研究を發表する。

6 著述による發表

學校並に個人に於て研究をとりまとめ、單行本として發表する。

九 當校沿革概要

- 一、明治四十二年五月一日 奈良女子高等師範學校開校 校長野尻精一
- 一、明治四十四年四月九日 附屬小學校開校(朝日分教場校舎) 主事眞田幸憲
- 一、明治四十四年七月二十一日 附屬小學校新校舎ニ移轉
- 一、大正五年四月四日 皇后陛下行啓、成績品ヲ台覽アラセラル
- 一、大正六年一月十六日 皇后陛下御歌下賜セラル
- 一、大正八年三月十日 主事木下竹次就任
- 一、大正八年七月十七日 校長槇山榮次就任
- 一、昭和七年六月十三日 校長稻葉彦六就任

- 一、昭和十二年六月二十七日 皇太后陛下行啓、附屬小學校六年女兒四年男兒各一名ノ學業演習ヲ聞召サル
- 一、昭和十三年四月二十一日 校長日田權一就任
- 一、昭和十五年十二月二十八日 主事武田一郎就任
- 一、昭和十六年五月十九日 東伏見宮妃殿下附屬國民學校ノ授業ヲ台覽アラセラル

一〇 參觀案内

一 授業を行はざる日

- | | |
|-------------|--------|
| 日曜日及び祝祭日 | 五月一日 |
| 開校記念日 | 五月二日 |
| 聖武天皇祭 | 六月二十五日 |
| 皇太后陛下御誕辰祝賀式 | 十二月十七日 |
| 春日神社若宮祭 | 三月六日 |
| 皇后陛下御誕辰祝賀式 | 三月十三日 |
| 春日神社申祭 | |

一〇 參觀案内

夏季授業を行はざる期間
冬季授業を行はざる期間
春季授業を行はざる期間

七月二十一日より八月三十一日まで
十二月二十五日より翌年一月七日まで
三月二十五日より三月三十一日まで

二 参観方法及び参観の注意

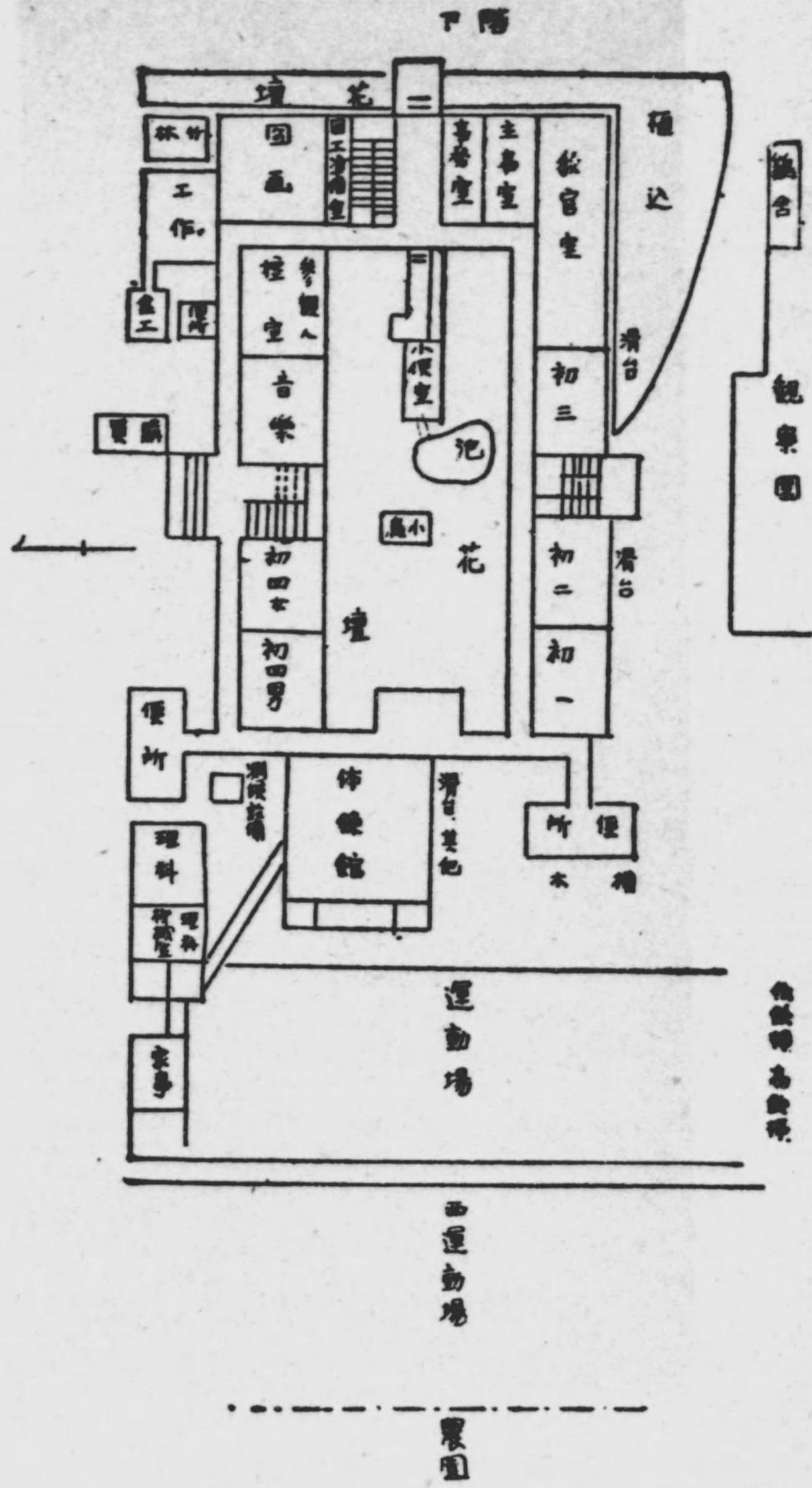
- 1 玄関受付にて参観人名簿に、職・氏名を記入して、参観者控室に入ること。
- 2 「参観案内」「校舎内案内圖」参観者控室揭示の「授業時間割表」を熟覽すること。
- 3 各教室は「謝絶札」を掲げてゐない限り、入口より参観し得ること。
- 4 教室への出入は相當の敬意を表すること。
- 5 授業途中の入退場はなるべく遠慮すること。
- 6 授業中は次の事を遠慮すること。
 - イ 参観者同志で私語すること。
 - ロ 教師兒童に話しかけること。
 - ハ 學習帳、成績物、圖書備品に手をふれること。
- 7 教育一般並に教科科目の研究につき質疑希望の向は 参観者應接係、研究部員に申し出ること。

- 8 研究印刷物希望の向は受付へ申し出ること。
- 9 喫煙・晝食は参観者控室ですること。
(購買部ではパンを販賣する)
- 10 適當な服装で参観すること。

三 校地校舎の略圖

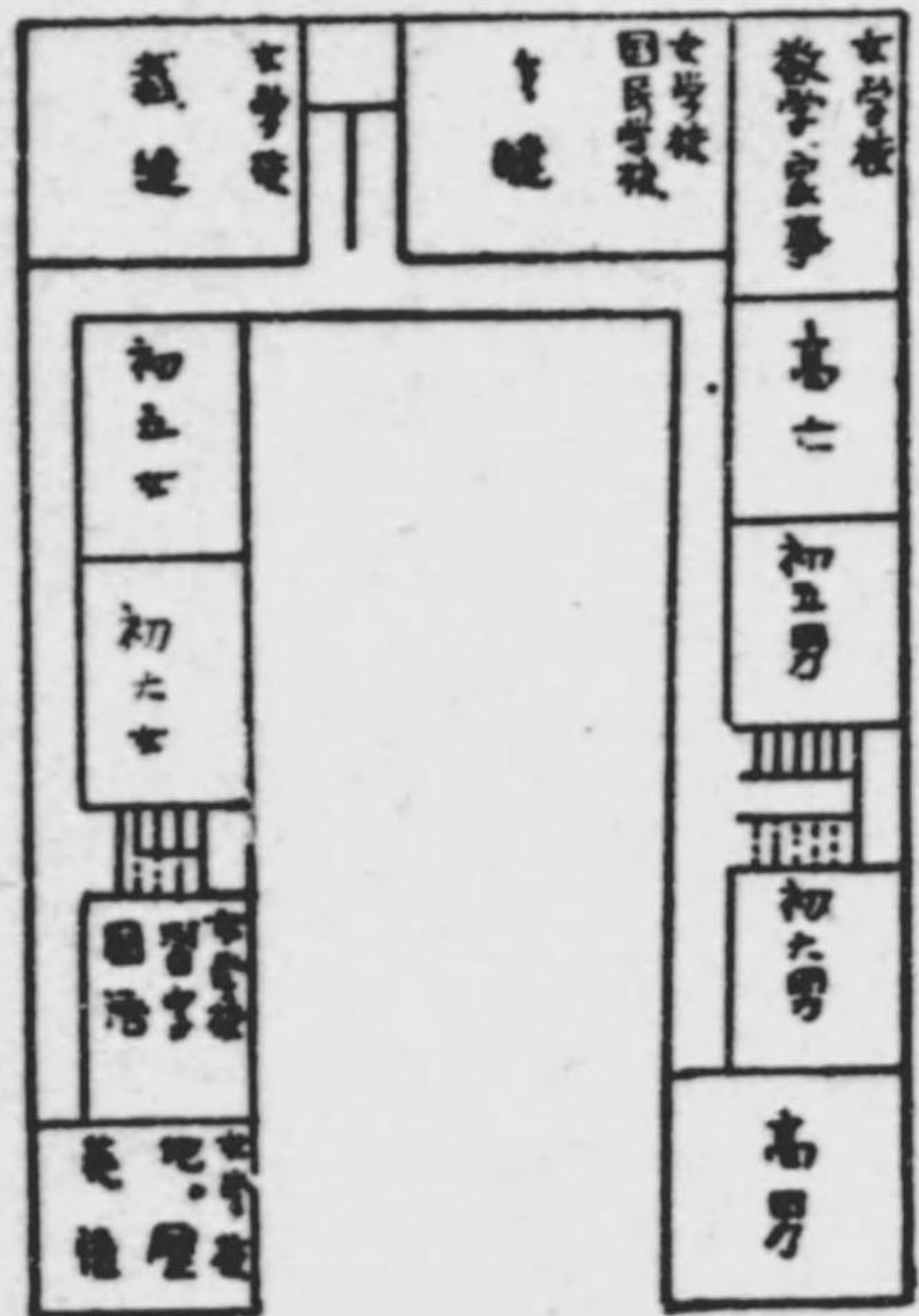
(次頁)

當校教育の概要



鳥瞰図

説明



昭和十七年一月二十日 初版印刷
昭和十七年一月廿五日 初版發行

當校教育の概要

◎ 定價六十錢

撰本控

272 冊 204 號 年 月 日

國民教育研究叢書
第1輯 當校教育の概要

備考

昭和十七年一月二十日

東京女子高等師範學校
 東京市京橋區入船町三丁目三番地
 昭和十七年一月廿五日
 初版發行

昭和十七年一月二十日 初版印刷
 昭和十七年一月廿五日 初版發行

納本

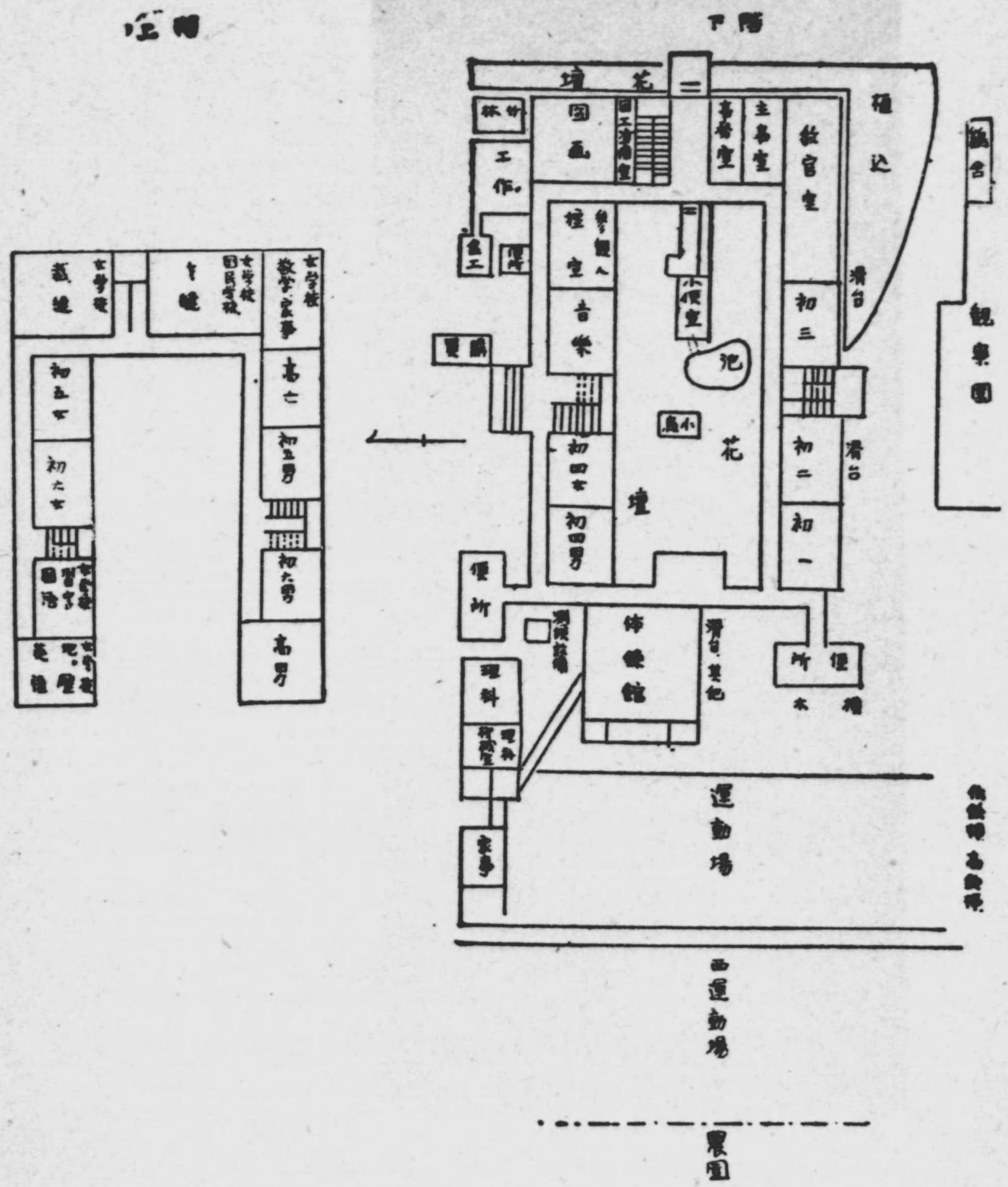
發行所
 東京市京橋區入船町三丁目三番地
明治圖書株式會社
 東京市神田區淡路町二丁目九番地
日本出版配給株式會社

配給元

定價六十錢

當校教育の概要

奈良女子高等師範學校附屬國民學校
 國民教育研究會
 著者 代表 **武田一郎**
 東京市京橋區入船町三丁目三番地
 發行者 **藤原惣太郎**
 東京市京橋區入船町三丁目三番地
 印刷者 **葛原秀一**



當校教育の概要



272
204

272
204



定價 ¥.60

明治圖書株式會社版

